

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		酒井 哲郎	所 属		医学部 医学科 システム生理学	
領 域		平成29年度 年度目標設定		平成29年度 年度末自己点検結果		
業務ウエイト比(予定)		業務ウエイト比(実績)				
教育・学生支援	0.35	1)「神経科学」および「ヒトの構造と機能」の講義・実習においては、生理学および神経科学の基礎の理解から始め、さらに最新の話題までの「広く深い」知識の習得を目指す。本年度も昨年度と同様に、power pointの内容に随時改良を加えていく。さらに、非常勤講師による特論の講義によって、カリキュラムを充実したものとする。2)「医学外国語」では今年もE.Kandelの神経生理学教科書を教材として用い、輪読により医学英語になじむと共に英文で教科書を読む英語力の習得を目指す。3)「医学概論A」の講義においては、基礎医学のearly exposureとしての位置づけを重視し、本年度もわれわれの研究室での最新の研究の進歩を紹介し、基礎医学への興味を掘り起こし、学生の研究へのmotivationを向上させていくことを目指す。4)大学院生への講義においても、われわれの研究室での研究の紹介を軸に院生の医学への知的好奇心を刺激して各自の研究への情熱を喚起する。5)第5年次の指導教官として年2回学生との懇談会を開催し、担当学生の相談に応じる。臨床科目を学ぶ学生に対して随時e-mailや面談により丁寧な相談をおこない、彼らの医学へのmotivationを高めていく。		0.35	1)「神経科学」および「ヒトの構造と機能」の講義・実習において、生理学および神経科学の基礎の理解から最新の話題までの「広く深い」知識の習得を目指して、power pointの内容に改訂を加えた。さらに、非常勤講師による特論の講義をおこなった。2)「医学外国語」ではE.Kandelの神経生理学教科書を教材として用い、輪読により英文で教科書を読む英語力の指導をおこなった。3)「医学概論A」の講義においては、基礎医学のearly exposureとしての位置づけを重視し、本年度もわれわれの研究室での最新の研究の成果を紹介し、基礎医学への興味を掘り起こし、学生の研究へのmotivationを向上させていくことを目指した。4)大学院生への講義においても、われわれの研究室での研究の紹介を軸に院生の医学への知的好奇心を刺激し、各自の研究への情熱を喚起することを目指した。5)第5年次の指導教官として学生との懇談会を開催し、担当学生の相談に応じた。	
研究	0.40	自分のライフワークである膜電位の光学的イメージングの技法を軸に研究を展開し、これまでに続けてきた、実験的心房細動の光学的解析の研究を進める。256素子のフォトダイオードアレイとCMOSカメラを用いて興奮伝播のイメージングを進めていく。この研究は方法論的にも実験系としても世界唯一のユニークな研究である。研究成果は論文にまとめて発表するほか、国内外の学会にて研究成果の発表をおこなう。研究費については、本年度は継続で科学研究費補助金の獲得に成功しており、これの有効な活用をおこなう。さらに民間外部資金への応募を積極的にこなう。		0.40	自分のライフワークである膜電位の光学的イメージングの技法を軸に研究を展開し、これまでに続けてきた、実験的心房細動の光学的解析の研究を進めた。256素子のフォトダイオードアレイとCMOSカメラを用いて興奮伝播のイメージングを進めた。現在研究成果は論文にまとめて発表準備中である。日本生理学会大会および西日本生理学会において研究成果の発表をおこなった。本年度は継続で科学研究費補助金の獲得に成功しており、これの有効に活用して研究を進めた。	
社会貢献	0.05	日本生理学会評議員を務め、日本生物物理学会・日本神経科学学会・日本循環器学会・米国心臓学会・米国Society for Neuroscience・米国生理学会会員として学会の発展に貢献する。		0.05	日本生理学会評議員を務め、日本生物物理学会・日本神経科学学会・日本循環器学会・米国心臓学会・米国Society for Neuroscience・米国生理学会会員として学会活動をおこなった。	
管理運営	0.20	システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークや教室費の無駄の無い有効活用などを重視した教室の管理・運営をおこなう。廃棄物委員会委員、図書館分館運営委員、研究概要委員として委員会活動に参加する。		0.20	システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークや教室費の無駄の無い有効活用などをおこなうことができた。廃棄物委員会委員、図書館分館運営委員、研究概要委員として委員会活動に参加した。	
計	1.00			1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		細川 浩	所 属	医学部・システム生理	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	Neuroscienceの最近の研究成果を授業に反映し講義ノートを改編する。 学生評価アンケートに基づき情報演習をより理解しやすい内容に変更する。		0.30	最近のNeuroscienceの研究成果に従いTBLの講義ノートを改変した。 大講堂での講義のためスライド原稿を改変した。 学生評価アンケートを参考に情報演習を易しくした。	
研究	0.50	研究成果をまとめ、学会誌への投稿準備および学会発表を行う。 基礎研究(C)の課題研究を実施する。 東京医科歯科大学難地疾患研究所との共同研究を進める。		0.50	研究成果をまとめて、第94回日本生理学会で発表した。 基礎研究(C)で研究装置を導入し、セットアップして稼働可能にした。 東京医科歯科大学情報部と実験解析プログラム改良を議論した。	
社会 貢献	0.05	学会誌の査読委員として学会活動に貢献する。 沖縄県体育協会行事の運営に競技審判員として貢献する。		0.05	九州ブロック長崎大会に山岳成人女子の監督として貢献した。 沖縄山岳連盟の開催する競技会に競技委員長として貢献した。	
管理 運営	0.05	委員会委員として運営に貢献する。		0.05	大学入試センター試験運営に主任監督者として貢献した。	
進路 指導	0.10	指導教員として学生の勉学、生活面の相談に応じアドバイスする。		0.10	M5の指導員として4、12月に班会を開いて学生の近況を把握し、勉学、生活面のアドバイスを行った。	
	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		梁 運飛		所 属		医学部 医学科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.40	学部担当科目(生理学の実習)を担当し、学生の実習を丁寧に指導する。去年の実習に現れた問題により、実習書を直し、実習講義及び実習の指導方法を改善して、学生の実習の質を一層高めることを目指す。				0.40	去年の実習に現れた問題により、実習用テキストを改定し、今年度の学部学生の電気生理学実習は去年度よりかなり順調になった。実習に関する教育目標を達成した。				
研究	0.50	1、沖縄にある亜健康(未病)研究所と連携し糖尿病などの生活習慣病に関する共同研究を行う。2、鹿児島大理学部との痛覚に関する共同研究を続けて行う。				0.50	研究成果 ①「Preclinical tumor detection and visualization and intervention of the ahead tumor sick」を[The First International Forum of Ahead Sick 2017]にて発表した。②「Visualization of the ahead tumor sick and the treatment with natural therapy」を[World Natural Medicine Forum 2017]にて発表した。				
社会 貢献	0.05	続けてボランティアで日曜日の沖縄県民のための「中国語会話」の活動を取り組んで地域社会に貢献をする。				0.05	ボランティアで世話人として毎月の第一の日曜日の午後に那覇市新都心で「中国語会話」の活動を行った。県民の参加者からの好評を得た。				
管理 運営	0.05	大学センター試験及び二次試験の監督関連業務等に積極的に参加する。				0.05	大学センター試験と本学の二次試験の監督業務に参加し、任務を成し遂げた				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野口 洋文	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	シラバスに従って授業を行う。受け持ち学生と定期的に面会を行い、学生の支援を行う。		0.20	発生再生医学の関してはオーガナイザーとしてシラバス作成、授業の実施、および本試験・再試験を実施した。それ以外の担当の授業は、シラバスに従って授業を行った。受け持ち学生と定期的に面会を行い、学生の支援を行った。	
研究	0.30	幹細胞を用いた研究、膵島移植に関する研究を行い、論文発表を行う。研究費獲得に向け、日本学術振興会研究費、AMEDおよび民間の研究費募集に申請を行う。		0.30	幹細胞を用いた研究、膵島移植に関する研究を行い、論文発表を7報行った。日本学術振興会研究費、AMEDおよび民間の研究費募集に申請を行い、合計約3500万円の研究費を獲得した。	
社会貢献	0.20	細胞培養加工施設(CPC)を使用した治療が行えるよう、臨床の先生の支援を行う。学会・論文発表を積極的に行い、研究内容を社会へ公開していく。		0.20	細胞培養加工施設(CPC)の管理・運営を行った。企業のCPC事業に関する助言をおこない、大学内ベンチャーが同CPC内で開発できる環境を整えた。また、第一内科が計画している再生医療の支援を行った。学会・論文発表を積極的に行った。	
管理運営	0.30	各種委員会に定期的出席する。講座の管理運営を行う。再生医療研究センターのセンター長として、細胞培養加工施設(CPC)の管理運営を行う。		0.30	16種の委員会に所属し、定期的に出席した。今年度の計画通り、講座(教官2名、技術職員2名)および再生医療研究センター(技術職員3名)の管理運営を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		潮平 知佳		所 属		大学院医学研究科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	医学科学生の講義およびその補佐、また講座所属学生への研究指導を行う。産官学関連事業において、その職員に対する技術指導および補佐をする。教育連絡主任業務を行った。				0.20	医学科学生の講義、試験および基礎研究指導を行った。当講座所属の医学科学生の講義およびその研究指導を行った。産官学関連事業において、その職員に対する技術指導および補佐をした。				
研究	0.60	日本学術振興財団の科学研究費基盤(C)主任研究およびその他基盤研究(B)および(C)の分担研究を行う。再生医療および講座が関わっている産官学事業に関する研究活動を行う。英語論文の作成および発表を行う。学内外の研究機関との共同研究を行う。学内外の学会および研究会または、講演、講習会などに積極的に参加する。				0.60	日本学術振興財団の科学研究費基盤(C)主任研究およびその他基盤研究(B)および(C)の分担研究を行った。再生医療および講座が関わっている産官学事業に関する研究活動を行った。英語論文の発表および学会発表を行った。学内外の研究機関との共同研究を行った。学内外の学会および研究会または、講演、講習会などに積極的に参加した。				
社会貢献	0.10	産官学関連事業の推進への貢献。講座の学内外の研究会および講演会活動に貢献する。学会発表および学会誌への論文投稿を行う。				0.10	産官学関連事業の推進への貢献をした。講座の学内外の研究会および講演会活動に貢献した。学会発表および学会誌への論文投稿を行った。学外の私立中高大学の学生むけにボランティアで講演指導をおこなった。				
管理運営	0.10	産官学関連事業の管理運営業務を行う。部局内の劇物毒物化学薬品管理業務。入試関連業務および各種委員会。				0.10	産官学関連事業の管理運営業務を行った。部局内の管理運営業務、劇物毒物化学薬品管理業務および所属長が管理運営する再生医療研究センターの業務にあたる技術職員への指導を行った。入試関連業務および各種委員の役割を行った。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中島 義基	所 属		大学院医学研究科 再生医学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	シラバスに従って授業の補佐を行う。配属される学生の支援を行う。			0.20	発生再生医学に関しては本試験・再試験問題の作成、ならびに採点を実施した。医学英語に関してはシラバスに従い授業を分担した。基礎配属に関しては学生を受け持ち学術的なサポート、ならびにポスター作成の支援を行った。		
研究	0.60	幹細胞を用いた研究を行い、論文発表を行う。研究費獲得に向け、日本学術振興会研究費および民間の研究費募集に申請を行う。企業との共同研究を行う。			0.30	幹細胞を用いた研究、腓島移植に関する研究を行い、論文発表が1報、リバイス中が2報、投稿済みが2報、投稿予定が3報である。日本学術振興会研究費を獲得した。臨床科所属の留学生の研究指導を行い論文3報を投稿予定である。		
社会貢献	0.20	学会・論文発表を積極的に行い、研究内容を社会へ公開していく。			0.20	幹細胞を用いた研究、腓島移植に関する研究を行い、沖縄科学技術大学大学院(OIST)にてポスター発表を1報行った。		
管理運営	0.10	教室の管理・運営を行う。			0.30	講座(教官2名、技術職員3名)および再生医療研究センター(技術職員2名)をサポートし、教室の管理運営を行った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		前田 士郎		所 属		大学院医学研究科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.25	学部学生のゲノム医学教育を通じてヒトゲノム研究の臨床的意義について理解させる。3年生の教育担当学生について全員の全単位取得を目指す				0.25	学部学生のゲノム医学教育を通じてヒトゲノム研究の臨床的意義を伝えた。3年生の教育担当学生について1回懇談会を行った。全員が全単位取得見込みである				
研究	0.30	沖縄県におけるゲノム研究の基盤となる沖縄バイオインフォメーションバンクの構築を図る。ヒトゲノム関連の研究成果を論文化する				0.30	沖縄県におけるゲノム研究の基盤となる資源構築に向けて資金を獲得し、DNA血漿、健診情報からなる資源構築を行った。今年度は約6000名の試料収集を達成した。シーケンス解析の基盤整備としてロングリード次世代シーケンサーおよび解析ワークステーションを導入したヒトゲノム関連の研究成果をBBRCおよびNature Genetics, 詩に発表した。UAEで開催された国際糖尿病学会においてシンポジストとして発表した				
社会貢献	0.15	沖縄県におけるゲノム事業の必要性、有用性の啓蒙を謀り、将来の健康長寿社会構築の基盤を形成する。同時に円滑な検査輸血業務の遂行により地域医療への貢献に努める				0.15	沖縄県先端医療実用化推進事業を通じて沖縄県におけるゲノム事業の必要性、有用性の啓蒙のためシンポジウムをおこなった。また各種講演会での講演を行った				
管理運営	0.30	先進ゲノム検査医学講座教授としてまず人材獲得と研究環境整備に努める。また琉球大学附属病院検査・輸血部部長として迅速正確な検査輸血業務が遂行されるよう管理運営を行う				0.30	先進ゲノム検査医学講座教授として研究基盤整備をすすめた。また琉球大学附属病院検査・輸血部部長として迅速正確な検査輸血業務が遂行されるよう管理運営を行い国際認証ISO15189取得を達成した				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		今村 美菜子	所 属		先進ゲノム検査医学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	M2における遺伝医学の講義および実習、M4-M5臨床検査医学ポリクリにおいて、基礎的な医学知識を習得させると同時に、最新の研究成果の紹介等により常に最先端の医学知識身につける姿勢を持てるよう指導する。2年次学生(11名)の指導教官として、学生生活全般におけるサポートを行う。			0.10	M2における遺伝医学の講義および実習、M4-M5臨床検査医学ポリクリでの指導、2年次学生(11名)の指導教官としての学生生活全般のサポートについては当初の目標どおり適切に指導を行えた。これらに加え、基礎配属(M3 3名 うち1名は医科学研究発表にて優秀賞受賞)の学生の指導および、遺伝医学に興味をもち自主的に研究室を訪問した学部学生に対する研究指導も行った。		
研究	0.55	沖縄県におけるヒトゲノム研究を推進するための基盤づくりを行う。国内外の学会において最新の研究成果を報告する。平成29年度に採択された基盤研究(C)について研究を遂行する。臨床検査輸血部において、検査技師を中心とした研究の指導およびサポートを行う。			0.55	沖縄県のヒトゲノム解析拠点となる沖縄バイオインフォメーションバンクの構築(ゲノム・血漿サンプルの収集、サンプル管理システムの構築、新規導入したシーケンサーの稼動)に貢献した。本年度新規に採択された基盤研究(C)については申請した実験計画に沿った研究を開始した。また検査輸血部では、抄読会や学会発表指導等を通じた研究の指導、サポートを行った。さらに、海外との共同研究の共著論文がNature Geneticsに採択された(1件)。		
社会貢献	0.05	講演活動を通じて最新のゲノム医学の成果を広く共有する。			0.05	日本糖尿病学会九州地方会のシンポジウムおよび臨床医を対象とした研究会の招待講演などで最新のゲノム医学の成果と臨床応用について講演を行った。		
管理運営	0.30	臨床検査輸血部において、検体検査全般の管理運営、検体検査の判断の補助に携わる。ISO15189 取得に向け、検査室管理主体としての取り組みを行う。リスクマネージャーとして附属病院、検査輸血部の安全管理を行う。			0.30	検査・輸血部においては、検査・輸血部副部長およびリスクマネージャーとして検体検査全般の管理運営、検体検査の判断の補助、安全管理に携わった。さらに、ISO15189 取得に向けた活動には検査室管理主体の一員として積極的に取り組み、12月に無事認定取得した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	高山 千利		所 属	大学院医学研究科	
職 名			教授		
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 医学研究科博士課程・修士課程の講義・演習を行い、医学研究科大学院生の教育を行い、研究をサポートする。 医学部医学科1年次、2年次の学生に対して、医学概論、分子細胞生物学、組織学、神経科学、発生学の講義・実習を行い、基礎医学力の向上に努める。 医学部3年次学生に基礎研究を指導し、研究者マインドの涵養に努める。 3年次の指導教員として、学生10名の生活面・学業面を指導・監督する。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 医学研究科(博士・修士)の講義・演習を行った。さらに、研究室ローテーションでの指導も行った。 医学部医学科の講義・実習を行った。さらに、医科学研究の指導を行い、研究者マインドの涵養に努めた。 国際基準の医学教育プログラムの構築を進めた。 3年次の学生(10名)に年次別懇談会を行い、大学生活(教育プログラムを含む)についてのアドバイスを行うとともに、問題点の洗い出しを行った。
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 博士課程を単位取得退学した非常勤講師(1名)、4年次(1名)の博士取得まで指導する。 博士課程(1名)、修士課程(1名)の研究を指導し、学会発表を1回ずつ行わせる。 ポスドク研究員、学振特別研究員、特命助教とともに研究を行い、その成果を全国集会で3回以上発表し、学位論文を含め、責任著者として学術論文を3報以上を受理させる。 准教授、助教の研究に助言を与え、論文の発表に協力する。 学内・学外の研究者と共同研究を進め、期間内に共著論文の作成に協力する。 講座として、10報の原著・総説論文を受理する。 文部科学省科学研究費補助金を新規申請する。 沖縄県内企業との共同研究を行い、新規の研究資金に応募する。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> 学位論文の作成を指導し論文は受理された。年度末までの学位審査会発表に向けての準備を進めている。 博士課程2名、修士課程1名を指導し、全国集会で2回、地方会で1回、成果を発表させた。また、和文ではあるが、学術論文(査読付き)に1報発表した。 1年間に、責任著者として3報の英文論文を発表し、共著と合わせて、査読付きの英文論文6報を発表した。 文科省科学研究費補助金、沖縄県イノベーション事業などの研究費(継続)を獲得した。
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 公益財団法人 沖縄県医科学財団の専務理事として、理事会、評議会、専門部会に参加し、財団の管理運営を行うとともに、沖縄県の医学水準の向上に寄与する。 沖縄県地域医療協議会委員として沖縄県の地域医療に貢献する。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> 財団理事として、沖縄県の医療水準の向上に寄与した。 沖縄県の僻地医療WGのメンバーとして医療水準の向上に寄与した。
管理運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 分野別認証評価(通称:国際認証)検討委員会委員長として、琉球大学医学部医学科の自己点検評価表を完成させる。12月に実施される認証に向けての準備を進める。 積極的に問題(学業・精神面)を抱える学生への介入を行い、学力の向上、医師となるための技術の向上に努める。 国家試験合格率が全国平均を上回るように対策を講じる。 全学的な教育改革の取り組みに参画する。 医学部附属動物実験施設長(兼全学動物実験委員長)として組織の管理・運営・改組、予算要求を行い、琉球大学における動物実験を用いた研究が発展し、多くの業績が出せるよう努める。前年度の業績を上回るよう努力する。 医学部・医学研究科教授会メンバー、医学部・医学研究科の管理運営に参加する。 学務委員会委員として、大学院修士課程、博士課程の入試に関与する。 グローバル教育支援機構委員として、琉球大学全体の教育レベルの向上に寄与する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> JACMEによる分野別認証評価受審のための準備委員会の委員長として、準備を進め、受審の陣頭指揮を行った。さらに、受審後、改善案をまとめて、今後の琉球大学の医学教育カリキュラムの国際水準への引き上げを行った。 さまざまな問題を抱える学生に、面談などを通じて対応し、トラブルの改善を行った。 医学部附属動物実験施設長として、また、全学動物実験委員会委員長として、施設の円滑な運営、問題点の解決、さらに、全学的に問題となった動物実験に関する問題の解決を行った。さらに、前胡的に進んでいる動物愛護保護法との整合性を取る方針について決定した。 医学部医学科、医学研究科の委員会委員として、諸問題の解決に努めた。 高大接続、大学入試改革プログラムなど、入試方法の改革と求められており、全学のWG委員として、琉球大学全体の入試の在り方について議論を進め、次年度最終案作成を行った。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		大倉信彦	所 属		医学部 医学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.60	昨年に引き続き、学部担当科目(分子細胞生物学, 人体の構造と機能, 組織学実習, 神経科学, 基礎研究)の講義と実習を分担する。変更されたカリキュラムに基づいて、教材の改良に努める。学士編入生と再試験受験者を対象に組織学の補講を行ない、組織学の習得を促す。		0.60	学部担当科目に関しては教材の改良を継続した。これらの教材は講義実習に用いるとともに、オンライン学習システムにアップロードし学生の自習の便を図った。人体の構造と機能においてTBLを引き続き実施した。特に、本年は臨床講座の教員の協力を得てTBLに臨床現場の臨場感を取り入れることができた。組織学実習と人体の構造と機能における定期試験において、各教員が分担作製した問題を取りまとめる業務を担当した。学士編入学生と組織学実習再試験受験学生を対象に、組織学実習の補講を実施した。
研究	0.30	二型精子の研究を継続して行う。カワニナ精子の雌生殖器官における動態を解析し、少なくとも学会発表を1回行う。人体解剖学分野との共同研究で、ホヤ卵の受精に関する研究における形態学的解析を分担する。細菌学講座のトーマ博士との共同研究を分担し、腎臓における感染性レプトスピラの動態を解析する。二型精子研究に関して、科学研究費申請を行う。		0.30	カワニナ精子の研究を継続し、10月に岐阜大学で開催された、淡水貝類研究会第23回研究集会で演題を発表した。人体解剖学分野との共同研究を継続し、9月に富山県民会館で開催された日本動物学会第88回大会で演題を発表した。細菌学講座との共同研究を継続し、10月にOISTで開催されたOIST-Univ.Ryukyus Joint Symposium 2017で演題を発表した。科学研究費の申請を行った。
社会 貢献	0.10	地域のコメディカル教育(那覇看護専門学校)に協力する。「人体の構造と機能」の講義および解剖見学実習を通して、看護職の基盤教育に貢献する。その他に、地域団体等からの要請があれば、一般市民を対象に、研究について判りやすく紹介する講義や講演などを行う。		0.10	那覇看護専門学校看護学科で人体の構造と機能(解剖生理学)と臨床病態学Iの講義を行い、また、人体解剖実習見学を実施して、看護職の基盤教育に貢献した。9月に行われた、日本動物学会第88回大会の一般公開イベント「動物学ひろば」で一般向けの展示を出展した。
管理 運営	0.00			0.00	
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小林しおり	所 属		医学研究科	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.10	・分子解剖学講座が担当する実習(組織学、神経解剖学、神経科学)にて医学部医学科学生に指導をおこなう。		0.10	分子解剖学講座が担当する各実習にて指導を行った。			
研究	0.90	・神経の発達に関する研究をすすめる。 ・上記の研究成果について、学術集会において1回以上発表し、原著論文1報以上作成し、投稿する。		0.90	神経の発達に関して、胎児期から生後初期にかけてのGABAニューロンの発生を追った。さらに、その成果を原著論文としてまとめている。他に、神経可塑性とGABAに関して、原著論文として投稿、また3月に日本解剖学会の学術集会で発表予定である。			
社会 貢献	0.00			0.00				
管 理 運 営	0.00			0.00				
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	小田 高也		所 属	大学院医学研究科・ゲノム医科学講座	
職 名			准教授		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.10	<p>(学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年度より新規に開講した医学科1年次対象専門教育科目「分子細胞生物学」への参加。昨年度の経験を踏まえてWebClassを活用した効率の良い知識の習得を目指す。 ・2年次学生5名を対象とした医学外国語分担(5/29-7/10)。 ・4年次医科学研究生1~2名の受け入れ予定。 ・5年次学生8名を対象とした倫理総合討論⑫班の指導(5/24-6/28)。 ・指導班(H26年度入学生6名・留年生3名・2年次編入生1名)への対応およびH26年度指導班からの留年生4名のフォローアップ。 <p>(大学院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期にゲノム情報学特論とゲノム医科学特論、通年でゲノム医科学演習・実習を開講予定。 	0.15	<p>(学 部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「分子細胞生物学」の3コマを担当した。WebClassを利用して講義前には演習の課題および講義資料の配付を、講義後には出席確認を兼ねた小テストの解説を含めた補足資料の提供およびアンケートを実施して次年度に向けた改善の資料とした。 ・主任教授と分担している医学外国語では7コマを担当し、実践的な英語力の獲得に努めた。 ・医科学研究では1名が講座に配属されて、研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』に基づく実験を2月末まで継続予定。 ・倫理総合討論ではBGMに合わせて討論会を進行するという過去に例のない演出を経験した。奇抜とも思える発想だったが、担当メンバーの努力により参加者には印象深い会になったのではないかと考えている。 <p>(大学院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修登録したものの受講困難となった学生に対して評価を「保留」とした。 ・大学院生2名の副指導教員として学位申請予定の論文投稿に際しての事前審査をおこなった。 <p>(学生支援1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前後期の懇談会を通して担当学生と接し、履修指導をおこなうと共に課外活動を含めた生活状況の聞き取りなどをおこない、個々の生活状況の把握に努めた。 <p>(学生支援2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休学中の指導学生が関わる事案に対する調査委員会に参加した。 <p>(学生支援3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留年のため28年度に担当したが、不登校により進級できない元指導学生に対して、関係職員と協力して今年度での単位取得をめざした。しかし、前期科目の単位は取得はできたものの、秋頃より登校が再度難しくなった。面識のある保護者とも協力して来年度での単位取得をめざしていく。 	
研究	0.80	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』を展開させるため、胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物の細胞内での機能を明らかにする。 ・H30年度『科学研究費補助金』の申請に向けて、細胞内で2種類存在する上記遺伝子転写物の細胞質および核内におけるそれぞれの役割を検証するための予備実験を行う。 	0.75	<ul style="list-style-type: none"> ・機能性RNAとして注目している胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物は、胎盤絨毛における細胞融合モデルであるBeWo細胞がForskolinで処理された際に発現が亢進する。更に、Forskolinにより融合形成中のBeWo細胞群では、既知の細胞融合関連分子であるSyncytin-2と酷似した発現様式を示している。現在、HML6-c14転写物の発現亢進をshRNAで抑制した際のBeWo細胞の形態変化を細胞融合現象と関連づけて検討中である。 	
社会 貢献	0.00		0.00		
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度に発足した「ハラスメント相談支援センター」の相談員としてキャンパスにおける健全な環境維持に貢献する。 ・今年度より新設される大学評価IRマネジメントセンターの評価企画員として教育研究等の改善及び改革に取り組む活動に参加予定。 ・医学科教育連絡主任としての医学教育分野別認証活動への参加。 	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント相談支援センターの学部相談員として、木・金曜日の5コマ目を隔週で担当している。 ・28年度末に同センターが受理した申立てに基づくハラスメント調査委員会に第2号委員として関与中。 ・大学評価IRマネジメントセンター会議への出席に加え、11月におこなわれた大学機関別認証評価に係る訪問調査の「一般教員等への質疑応答」に医学部教員として参加。 ・医学科医学教育評価委員会に参加し、ワーキンググループ(米本班)のメンバーとしてデータ解析に関与した。 	
計	1.00		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮崎 哲次	所 属		医学部 医学科 法医学	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	医学科4年次学生向けの「法医学・医事法制」では、全授業の半分近くを担当する。医学科6年次の臨床実習において、法医学を希望する学生5名に対し実習を実施する。医学科1年次向けの医学概論Aでは最初の授業を担当する。琉球大法務研究科において、昨年度に引き続いて視野の広い法律家作りに貢献することを目的とする科目「刑事政策」において授業を3回担当する。鹿児島大及び横浜市大の非常勤講師としての責務を果たす。			0.20	「法医学・医事法制」では計画通り全授業の半分近くを担当した。医学科6年次の選択実習では5名の学生を受け入れて法医解剖や死体検案を中心とする実習を行った。1年次学生向けの医学概論では、4月に第一回目の授業を担当した。法務研究科において計画通り3コマの授業を行った。10月に鹿児島大にて特別講義を行った。横浜市大での講義は2月実施の予定となっている。6年次学生の指導教員の6月末での退職に伴い、急遽その後任として活動した。		
研究	0.40	法医学の研究に資するため、期間内に50体以上の解剖を自ら執刀する。法医学講座の研究及び運営のための外部資金を獲得する。国際誌に学術論文を掲載する。			0.40	平成30年1月22日までに47体の法医解剖を自ら実施して、法医学の研究に役立てた。法医学講座として、2,900万円以上の外部資金を獲得した。国際誌American Journal of Forensic Medicine and PathologyおよびMedicineに学術論文の掲載が決定した。		
社会 貢献	0.10	沖縄県警の検視レベルの向上を目的とする「法医実務教養」では損傷、窒息などの重要部分の授業を担当し、授業用スライド、配付プリントに図や写真を多用して医学に関する基礎知識の少ない受講警察官の理解に供する。			0.10	8月から9月にかけて上原キャンパスにおいて9回(1回4時間)の「法医実務教養」を開催し、自らは16時間の授業を担当した。授業用パワーポイントおよび配付プリントにはカラー写真・図を多く用いて、受講者の理解に供した。受講者は警察官だけでなく、海上保安官や自衛隊員も加わった。		
管理 運営	0.30	部局の自己点検評価・改善委員会委員長として機能する。全学組織である教育・学生支援に関する自己点検・評価委員会委員として、琉球大が今年度受審する大学機関別認証評価の自己評価書作成に参画する。			0.30	部局の自己点検評価・改善委員会委員長を務めた。今年度受審した機関別認証評価では自己評価書の作成に参画した。その他、全学および部局の各種委員を務め、医学科入試委員として高校訪問や那覇市での大学説明会にて活動した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		福家 千昭	所 属		大学院医学研究科法医学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.15	<p>学生に講義の内容を理解しやすくするために、ビデオや動画などを盛り込んだ講義資料を作成・準備する。 直近の事例を取り入れ、最新の中毒情報を提供する。 大学院生に対して実験の原理、本質を理解させるようディスカッションを多く取り入れ、本や文献の紹介、抄読会を積極的に行う。 指導教官として学生との連絡を密にし、修学、生活面で支援する。</p>		0.15	<p>学生に対しては危険ドラッグの事例など最新の事例を盛り込み講義内容の変更を行った。 修士課程学生に対しては例年通りの講義を行った。 指導担当学生に対してし、学生の生活状況を把握し、修学に対する意識の持ち方や進路について話を聞き、学生の修学に対する悩みの相談に対応した。 横浜市立大学法医学教室との共同研究において、横浜市立大学のスタッフや大学院生に対して研究指導や学会発表の援助を行った。</p>
研究	0.30	<p>農薬や医薬品などの急性中毒に関する研究を継続的に行い、その研究結果を法医学会、中毒学会や法中毒学会などで発表する。 発表した内容について論文にまとめ、学術雑誌に投稿する。 日本法医学会にて評議員としての活動と法医中毒ワーキンググループの一員としての役割を果たす。 法医中毒研究会の役員・事務局として研究会を運営し、総会や勉強会・セミナーの開催を行なう。 日本法中毒学会の評議員として学会運営に協力する。 日本中毒学会にて評議員として学会運営に協力する。</p>		0.30	<p>研究成果を日本法医学会全国学術集会、日本法医学会九州地方学術集会、日本法医学会関東地方学術集会にて発表した。 法医中毒研究会の役員・事務局として研究会を運営し、総会や勉強会・セミナーの開催を行った。 日本法中毒学会では理事に選出され理事として学会運営に協力した。また、日本法医学会、日本中毒学会の評議員会に参加し学会運営に協力した。</p>
社会貢献	0.50	<p>法医解剖例や医療機関から依頼された薬毒物検査を行う。</p>		0.50	<p>平成29年に解剖した症例の内30例について各薬毒物の定性・定量分析を行った。また、他施設からの依頼分析を16件行った。</p>
管理運営	0.05	<p>琉球大学環境・施設マネジメント委員会化学物質専門部会委員</p>		0.05	<p>化学物質専門部会委員として会議に参加した。</p>
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		二宮 賢司		所 属		医学研究科法医学講座		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	医学科4年次に対する講義の一部を担当する。医学科6年次の選択実習の学生に対し、法医実務の紹介を行う。医学研究科博士課程の大学院生に対する講義の一部を担当する。				0.20	所属教室の医学部4年次に対する講義の、計5コマを担当した。6年次の選択実習生に対し法医実務の紹介を行った。医学研究科博士課程の大学院生に対する講義を1コマ担当した。				
研究	0.60	学術論文を作成し、国際誌に投稿する。法医学関連の学会への参加、発表を行う。法医学の研究に資するため、期間内に100体以上の法医解剖を執刀する。科学研究助成事業 若手研究(B)の交付最終年度であるため、同研究のまとめを行う。				0.60	Impact Factorを有する国際誌に、学術論文2編が受理・掲載された。法医学に関連する国内学会に参加して発表を行った。法医学の研究に資するため、平成30年1月15日までに、110体の法医解剖を執刀した。現在、交付を受けた科学研究助成事業 若手(B)に関する論文を作成中である。				
社会 貢献	0.20	沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」の一部を担当する。小児の虐待被疑事例に関し、児童相談所の依頼に応じて生体鑑定を行う。				0.20	「法医実務教養」において4時間の講義を行った。沖縄県警察学校の「検視実務専科」にて、検視実務についての講義を3コマ行った。児童相談所からの依頼で、虐待児の生体鑑定を1例行った。裁判所からの依頼で、傷害事件の鑑定を1例行った。				
管理 運営	0.00					0.00					
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	深沢 真希		所 属	医学研究科 法医学講座	
	職 名	特命助教			
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.15	医学科4年生の講義を担当し、法医学の基礎的知識を得られるような講義資料を準備し、講義および質疑応答を行う。医学科6年生における選択実習では、実務的な法医学的指導を行う。		0.15	医学科4年生の講義を担当し、法医学の基礎的知識を得られるような講義資料を準備し、講義および質疑応答を行った。医学科6年生における選択実習では、実務的な法医学的指導を行った。大学院講義を担当し、法医実務の概要や虐待について、豊富な症例写真を提示しつつ、法医学の臨床的知識を得られるような講義を行った。
研究	0.65	科研費若手研究(B)に採択された課題についての研究を進める。法医学に関連する学会に参加し、学術発表を行う。学術論文を作成し、学会誌に投稿する。法医学の研究に資するため、期間内に自ら100体以上の法医解剖を執刀する。		0.65	科研費若手研究(B)に採択された課題についての研究を進めた。法医学に関連する学会に参加し、ポスター発表を行い、座長を務めた。法医学の研究に資するため、平成30年1月23日までに120体の法医解剖を自ら執刀した。法医解剖例に関する英文の学術論文を作成し、学術誌に投稿中である。
社会貢献	0.20	児童相談所からの依頼に応じ、虐待されたと疑われる児の生体鑑定を行う。沖縄県警察の行う検視業務に協力し、死体検案を行う。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義を行う。		0.20	児童相談所からの依頼に応じ、虐待児の生体鑑定を5件行い、意見書を作成した。那覇地方検察庁検察官や弁護士らの求めに応じ、傷害致死事件についての面談、説明を行った。沖縄県警察の行う検視業務に協力し、死体検案を行った。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義を行った。沖縄県立南部医療センター・こども医療センターからの依頼に応じ、「モーニングレクチャー」において沖縄県の法医解剖の概要について講義を行った。
管理運営	0.00			0.00	
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		川上 由香	所 属		医学研究科 法医学講座	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.15	医学科4年生の講義を担当する。講義においては、法医学の基礎知識習得のための講義資料を準備し、小レポートや質疑応答を交えた講義を行う。医学科6年生における選択実習では実際の法医解剖・検案業務を通して法医実務の紹介・指導を行う。		0.15	医学科4年次の講義「頭部外傷」、「異常環境」を担当した。また、「医学部生のための九州法医学ワークショップ」に引率者として参加し、学生に対し指導及び討論の補助を行った。医学科6年生の選択実習生および法医学実務見学希望者に対し、解剖や検案業務などの法医実務の紹介・指導を行った。			
研究	0.70	法医学に関連する学会に参加し、学術発表を行う。学術論文を作成し、学会誌に投稿する。法医学の研究に資するため、期間内に自ら90体以上の法医解剖を執刀する。		0.70	法医学に関連する学会(日本法医学会全国集会、学術九州地方集会)に参加した。学術論文を作成し、共著者として「Medicine」、「AM J Forensic Med Pathol」に掲載された。平成30年1月24日現在までに116件の法医解剖を執刀した。			
社会貢献	0.15	沖縄県警察の行う検視業務に協力する。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」を担当する。		0.15	平成30年1月23日現在までに、沖縄県警の行う検視業務13件に協力した。「法医実務教養」において、「血液実習」「人体のしくみ」「突然死」の講義および実習を担当した。			
管理運営	0.00			0.00				
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	松下 正之		所 属	大学院医学研究科		
職 名	教授					
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	学部学生 1)「人体の構造と機能」の授業・実習により基礎医学の理解を深めさせる。 2)「分子細胞生物学」講義により、医学の基礎知識を習得させる。 3)国家試験レベルのミニテストなどを講義終了時に行う。 4)研究成果を紹介し、学生の基礎医学に対する興味を喚起する。 5)講義資料はWEBCLASSでも閲覧可能とする 大学院学生 1)生理学概論や各論の授業により、研究に必要な考えを習得させる。 2)大学院生の研究指導を行い、学位論文の作成指導を行う。		0.30	学部学生 1)「人体の構造と機能」の授業にて、内分泌などの講義を行った。 2)「分子細胞生物学」講義で総論の講義を行った。 3)ミニテストなどを講義終了時に実施した。 4)2名の学部学生が研究を行っている。 5)講義資料はWEBCLASSで閲覧可能としている。 大学院学生 1)生理学概論や各論の授業を行った。 2)1名の大学院生は育児休学をしている。	
		研究	0.50		1)我々の発見した転写因子が遺伝子改変マウスを用いた研究により精神的ストレスを制御していることを見出し、論文投稿を予定している。 2)AMEDのACT-MSなどの大型研究費の申請を行う。 3)医学部で獲得しているガスバイオロジー概算要求プロジェクトに貢献する。 4) 沖縄県の「先端医療実用化推進事業」での精神疾患研究を推進する。	
社会 貢献	0.10			理学療法士や作業療法士を目指す学生たちに、生理学講義を行い、正常な身体の機能について教育する。		0.10
管理 運営	0.10	分子・細胞生理学講座教授職にあり、本講座の准教授、助教、研究生の研究・教育指導にあたる。		0.10	講座の管理運営については、講座教職員で順調に運営できている。	
計	1.00			1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中村 真理子	所 属		医学部 医学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・前期M2対象講義について 医学外国語講義で、[血小板の基礎知識を得るためのテキスト(英文)を選択し、学生が英文購読しながら、知識を構築できる講義にする。 ・後期M1「人体の構造と機能(生理学分野)I講義・実習」を11コマと20コマ担当する。 理解度を深める講義を目指し、講義内容を実習に取り込み、一連の流れで行う。 血管内皮細胞・血小板機能等は、研究内容を講義や実習に導入する。 ・学士入学M2は、カリキュラムの都合上、別枠にて生理学実習を行う。 ・学生指導教官M4対象の学生へ生活態度・CBTへ向けての学習などの指導をおこなう。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・前期M2対象医学外国語講義で、[血小板の基礎知識を得るためのテキスト(英文)を選択し、購読しながら、知識を構築できる講義を心掛けた結果、学生より生理学講義の復習ができたと評価された ・後期M1「人体の構造と機能(生理学分野)I講義・実習」を11コマと20コマ担当し、講義内容を実習に取り込み、一連の流れで講義・実習ができた。 ・学士入学M2は、カリキュラムの都合上、別枠にて一部講義、実習を行った、実践に応用できる実習もできた。 ・学生指導教官M4対象の学生へ生活態度・CBTへ向けての学習などの指導を行った。
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトル:「血中の血小板由来マイクロパーティクル(PDMP)値の推移を比較し、凝固系破綻の早期発見と治療への応用につなげる」について、骨髄移植におけるPDMPの推移は、小児科領域と共同研究を開始する。 ・現在進行形の組換えハプトビンの血小板凝集能抑制効果について追究した結果を論文作成する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・「血中の血小板由来マイクロパーティクル(PDMP)値の推移を比較し、凝固系破綻の早期発見と治療への応用につなげる」の骨髄移植におけるPDMPの推移は、小児科領域と共同研究で、現在進行中である。本年度は7例の対象患者の推移を達成した。 ・現在進行形の組換えハプトビンの血小板凝集能抑制効果についての論文作成は、考察に難航し、現在進行中である。
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士・作業療法士・柔道整復師を目指す学生に、生理学講義を通して正常な身体の機能を教授する(学外)。 ・県立看護大学大学院・名城大学にて、病態生理学・生理学講義およびセミナーを行う。 ・日本生理学会・日本病態生理学会(教育委員として)評議員会へ参加する。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士・作業療法士・柔道整復師を目指す学生に、生理学講義を通して正常な身体の機能を講義するのは達成した。 ・県立看護大学大学院・名城大学にて、病態生理学・生理学講義およびセミナーを達成した。 ・日本生理学会・日本病態生理学会(教育委員として)評議員会へ参加も行った。
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験・入学試験(面接)およびCBT等の試験監督を率先して協力する。 ・CBTのブラッシュアップに率先して参加する。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験の試験監督を率先して協力した。 ・入学試験(面接)も依頼があれば協力する予定である。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		早川 朋子	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	呼吸機能の生理学実習を行う。マイクロスピロメーターを用いて肺活量、努力性肺活量、最大換気量を測定し、肺の換気機能について考察する。学部1年生の授業(分子細胞生物学)のうち、細胞周期とアポトーシスの章の講義を行う。			0.20	呼吸機能の生理学実習を行う。マイクロスピロメーターを用いて肺活量、努力性肺活量、最大換気量を測定し、肺の換気機能について考察する。学部1年生の授業(分子細胞生物学)のうち、細胞周期とアポトーシスの章の講義を行った。		
研究	0.80	統合失調症患者iPS細胞の樹立を行う。また現在受給中の科研費(基盤C)による研究成果の論文を投稿する。研究に興味を持っている学部学生を対象に、研究指導を行う。			0.80	統合失調症患者iPS細胞の樹立を合計5人分行った。また現在受給中の科研費(基盤C)による研究成果の論文を執筆した。研究に興味を持っている学部学生を対象に、研究指導を行う。		
社会貢献	0.00				0.00			
管理運営	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		筒井 正人	所 属		大学院医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	①医学科2年生における薬理学の講義と実習、②医学科4年生における医科学研究の研究指導、③薬理学大学院生の研究指導、④医学科1年生における医学概論の講義、⑤医学科2年生における医学外国語の講義、⑥医学科1年生の指導学生の生活指導を行う予定である。熱意と誠意を持って、当該教育に打ち込む。		0.30	左に掲げた年度目標は十分に達成できた。
研究	0.39	世界的に権威のある雑誌に、出来るだけ多くの論文をpublishさせることを目指す。加えて、外部資金の獲得に尽力する。		0.39	Diabetologia (IF 6.0)に責任著者として論文を発表した。この研究は、図がDiabetologia誌6月号の表紙に採用され、9つのWEBサイトで記事になり、医療NEWSのサイトではアクセス数ランキング第1位を獲得した。今年度の目標はある程度達成できたと考えている。外部資金については現在申請中である。
社会 貢献	0.01	久留米大学医学部の非常勤講師として薬理学の特別講義を担当する。また、沖縄科学技術大学院大学人対象審査委員会の委員を担当する。		0.01	左に掲げた年度目標は十分に達成できた。
管理 運営	0.30	現在、①教育研究評議会評議員、②教員人事学長諮問委員会、③懲戒委員会、④懲戒事案調査委員会、⑤研究推進会議研究企画員、⑥医学部附属実験実習機器センター長、⑦学務委員会委員、⑧薬事審議会委員、⑨組織整備検討委員会委員、⑩人を対象とする医学系研究倫理審査委員会委員、⑪利益相反マネジメント委員会委員を担当している。当該役職の職責を全うする。		0.30	左に掲げた年度目標は十分に達成できた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		坂梨まゆ子	所 属		医学研究科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	中枢神経作用薬の講義では、薬物依存症についての解説を追加する。鎮痛薬の講義では、OTC医薬品に含まれる成分についても作用機序に関する概説を組み入れる。漢方薬の講義では、可能であれば漢方薬の試飲を行う。昨年度に引き続き、学内外で開催されるFDや薬に関する研修会に参加し、最新の知見を広め、講義や実習に反映する。			0.25	中枢神経作用薬の講義では、覚せい剤および大麻の薬物依存症についての解説を追加した。鎮痛薬の講義では、アリルイソプロピルアセチル尿素についての作用機序に関する説明を追加した。漢方薬の講義では、刻み生薬の煎じ液の試飲を行い、エキス製剤との違いを学生に体験させた。学内で開催されたFD(国試対策等)および漢方薬の作用機序に関する研修会、授乳婦の薬物治療に関する研修会等に参加した。以上より本年度の目標を達成したものとする。		
研究	0.60	1) Triple NOS KO miceの性差研究において、testosteroneが虚血性心臓疾患の増悪におよぼす影響を引き続き検討する。2) 3-MST KO miceが高血圧を呈する機序を検討し硫化水素測定手技を取得する。3) 大学院生の各種研究(triple NOS KO miceのCo-housing研究, hypoxia研究, 骨再生研究)の実験等をフォローする。研究の成果を、学会や研究報告会等で発表する。			0.60	1) Triple NOS KO miceの性差研究において、testosteroneが虚血性心臓疾患の増悪におよぼす影響を検討するために、血管反応性の実験およびRNAseqのデータ解析を行った。2) 3-MST KO miceが高血圧を呈する機序の検討においても、血管反応性実験を行い、またポリスルフィド測定用にヘテロマウスを作製し、リターメートの繁殖を開始した。3) 大学院生の各種研究の実験等をフォローし、hypoxia実験では論文投稿まで至った。研究の成果は、次年度開催となるWCP2018で発表予定である。以上より本年度の目標を達成したものとする。		
社会 貢献	0.10	学外看護学生に対して薬理学教育を行う。昨年に引き続き、琉大附属中学校の学校薬剤師として学校環境衛生検査に従事し、適宜アドバイスを行う。一般人向けのお薬相談会等での相談、情報提供を行う。漢方薬・生薬認定薬剤師として、漢方薬の使用や適応などに関する指導や、副作用情報の提供を行う。研修認定薬剤師ならびに漢方薬・生薬認定薬剤師の認定更新(単位取得)のために、勉強会や研修に参加する。			0.10	浦添看護学校の学生に対して薬理学教育を行った。琉大附属中学校の学校薬剤師として学校環境衛生検査に従事し、さらに本年度は中学3年生生徒に対してくすりの授業(公開授業)を行った。一般人向けのお薬相談では、インスリン製剤の保存方法に関するアドバイスを行った。漢方薬・生薬認定薬剤師として、漢方薬の使用や適応などに関する指導を行い、拒薬患者に対する漢方薬の正しい服用方法を保険調剤薬局薬剤師に指導した。以上より本年度の目標を達成したものとする。		
管理 運営	0.05	1) CBT関係(問題作成および作問ブラッシュアップ)委員、教育連絡主任として各種業務に従事する。2) 大学入試の試験監督および採点業務などの入試業務に協力する。3) 化学物質管理責任者として試薬、特に毒劇物等の健全な管理を行う。			0.05	1) 国試問題作成およびブラッシュアップ業務と、総合試験作成に従事し、教育連絡主任を担当した。2) センター試験等、大学入試業務に協力した。3) 化学物質管理責任者として試薬、ガス、毒劇物等の管理を行い、不要な試薬については一部廃棄処分を行った。以上より本年度の目標を達成したものとする。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		植田 真一郎	所 属		大学院医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	大学院医学研究科 臨床薬理学及び臨床研究教育学の大学院及び臨床研究フェローシップにおいて正規の講義、演習、研究指導を行いながら遠隔地の学生のために積極的な訪問研究指導を行う。 医学部において臨床薬理学の講義、医科学実習、クラークシップ、TBLのプログラムを見直し、バージョンアップして対応する。		0.25	大学院医学研究科 臨床薬理学及び臨床研究教育学の大学院(25名)及び臨床研究フェローシップにおいて正規の講義、演習、研究指導を行いながら遠隔地の学生のために積極的な訪問研究指導を行い、目標を達成した。 医学部において臨床薬理学の講義、医科学実習、クラークシップ、TBLのプログラムを見直し、バージョンアップして対応し、目標を達成した。
研究	0.50	コルヒチン医師主導治験を進め治験届を提出 各分担研究施設でコルヒチン第2相用量設定試験の患者登録を進める。 第3相検証的試験の準備を行う。 実施中の臨床試験。臨床研究の患者登録を進めマイルストーンによる外部資金を獲得 コルヒチンの抗動脈硬化作用についてリバーストランスレーショナルリサーチを計画し、科研費を獲得 実施中のコホート研究をまとめ論文を作成する。		0.45	コルヒチン医師主導治験を進め治験届を提出し、各分担研究施設でコルヒチン第2相用量設定試験の患者登録が開始された。 第3相検証的試験の準備を行った。 実施中の臨床試験。臨床研究の患者登録を進めマイルストーンによる外部資金を獲得した。 コルヒチンの抗動脈硬化作用についてリバーストランスレーショナルリサーチを計画し、科研費を申請した。 実施中のコホート研究の解析をおこない、論文作成中である。
社会 貢献	0.15	AMED橋渡し拠点、革新的シーズなどの評価委員を務める。 日本高血圧学会のガイドライン作成委員としてガイドライン作成に寄与する。 日本アプライドセラピューティクス学会、日本臨床薬理学会地方会の会長として適切な薬物療法の普及、啓蒙に務める。		0.15	AMED橋渡し拠点、革新的シーズなどの評価委員を務めた。 日本高血圧学会のガイドライン作成委員としてガイドライン作成に寄与した。 日本アプライドセラピューティクス学会、日本臨床薬理学会地方会の会長として適切な薬物療法の普及、啓蒙に務めた。
管理 運営	0.15	委員長を務める複数の委員会、委員を務める委員会に置いて大学の研究力を増すための様々な活動を行う。		0.15	委員長を務める複数の委員会、委員を務める委員会に置いて大学の研究力を増すための様々な活動を行った。 先端医学研究センターの臨床研究総合支援部門の部門長としてARO機能の整備を行った。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		松下 明子		所 属		医学研究科 臨床薬理学講座		職 名		助教	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	臨床薬理学講義、大学院講義の担当分、その他依頼された講義は、厚生労働省やWHOの最新の統計データや、学術論文を取り入れ、学生が今後の診療・研究を進めていく上で基本的な考え方が出来ることに重点を置き、理解しやすい構成を工夫する。				0.20	臨床薬理学と大学院講義(研究方法論概論)のそれぞれの分担コマを講義した。最新のデータを示す中、統計データの解釈についても注意を払えるよう話し、また研究倫理面に関して私の体験した具体例を挙げ、理解しやすいように工夫した。				
研究	0.55	ヒト薬理試験、培養細胞実験を組み合わせ、高血圧、動脈硬化関連疾患の発症メカニズム、治療法の探索を行う。成果を国内、国際会議での研究発表、論文投稿する。				0.55	Circulation Journal Vol.82 No.2 page494-501(2018) Clinical Therapeutics Volume39 Number3 Page558-566 (2017) 上記論文が第2著者として出版された。 The 1st JCS Council Forum on Basic CardioVascular Researchにてポスター発表を行った。				
社会貢献	0.10	学会、論文発表等による研究成果の社会への還元				0.10	上記論文、学会発表することで日頃の研究を社会に還元できたことになるのかもしれない。 一般的な社会貢献という面では、沖縄県馬術チームのホースマネージャーとして九州ブロック大会及び愛媛国体に参加した。また県民体育大会馬術競技の審判を務めた。				
管理運営	0.15	入試関連業務等、依頼があった場合、協力する。 主催・協力しているリサーチカンファランスを引き続き開催し、学部・研究科の大学院生や研究者のネットワークをつくりを継続し、全体の研究アクティビティの活発化を推進する。 日本臨床薬理学会の第2回九州沖縄地方会の事務局長になっているため、開催のための実務をすべて行う。				0.15	CBT作問を担当した。臨床薬理M4M3試験、丸一日かかるCBT試験、大学入試センター試験の監督業務を行った。 リサーチカンファランスは地方会準備などがあつたため、今年度開催出来なかったが、来年度には再開したいと思う。 大学院生発表会と中間発表会に参加し、質問等をしてブラッシュアップに貢献した。 日本臨床薬理学会第2回九州沖縄地方会の趣意書作成、資金集めから始まるすべての業務を行い、無事終了した。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		苅谷 研一	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.45	大学院教育(共通講義、特論、演習、実習等)、学部教育(生化学を前半に再編した、基礎研究)、および共通教育(医学概論A)を担当する。また、大学院博士課程研究生について出身臨床講座に戻っても自律的に研究ができる能力の養成を念頭に指導する。また、共同研究先の院生や副指導教員を担当している他講座の院生にも必要な支援を行う。			0.45	博士課程研究生の指導、各種講義、副指導教員および臨床共同研究講座の論文助言、学部M1生化学講義実習と分生講義、共通教育(医学概論A)、M3医科学研究。医科学研究ではOIST希望学生を選考して国際応募(CV、proposal)を指導、採択されたため、派遣に備え細胞培養など基礎的実験も身につけさせた。学内の医科学研究学生は個人的相談にのった。		
研究	0.35	大学院博士課程研究生や他の教員とともに研究の進展、論文の採択、学外との研究交流(学会や他施設との共同研究等)、外部資金の獲得などにつとめる。			0.35	自作KOマウスにつき基礎講座やOISTと共同研究。個別あるいは集会で学外情報交換。KOマウスの観察から得たG蛋白によるストレス応答制御仮説の追求のため外部資金に応募。臨床共同研究講座院生の研究には別手法の解析も助言した。共同研究論文2件(責任著者1)、学会1件。		
社会貢献	0.10	研究成果を民間との連携により社会に還元できるよう目指す。また、査読や審査、知財の分与など学外からの依頼があれば応じて遂行する。			0.10	国際誌の査読、実験材料の提供など国際研究コミュニティへの協力、国内業務では公的試験の問題作成を担当するなどした。		
管理運営	0.10	学内、学部内の各種委員としての責務を遂行する。			0.10	人事関係の選考委員長など各種委員としての活動を行なった。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		海川 正人	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.40	教育は大学院生への講義、研究生への実験指導、大学院副指導教員業務、および学部学生に対する講義・実習、基礎研究指導、学生支援は学部学生の指導教員業務を行う。		0.40	大学院教育では講座内博士課程研究生や共同研究講座院生への実験指導、分担講義および副指導教員業務など、学部教育では生化学および分子細胞生物学講義・生化学実習指導、また、学生支援としては学部の指導教員業務およびクラブ活動への助言などを行なった。			
研究	0.40	科学研究費補助金(基盤研究C)のテーマについて研究するとともに、他の教員や研究生、他講座メンバーとも交流して研究の進展、情報交換(学会や共同研究)に励み、論文の採択、さらなる外部資金の獲得を目指す。		0.40	共同研究論文・学会などの発表だけでなく、獲得した科学研究費補助金で独自のテーマについて講座内のみならず海外研究室との共同研究も進め、各種学会参加による情報交換なども行なった。			
社会貢献	0.10	研究で得た知見が臨床に還元できることを目指して研究する。		0.10	ある種の白血病への対策に結びつく研究を目指している。			
管理運営	0.10	講座内各種業務分担、機器使用の効率化等について調整する。また教務連絡主任としての学部教育関連業務や各種管理関係委員業務を必要に応じて遂行する。		0.10	老朽化機器の更新予算の獲得に中心的役割を果たすなどの講座内部業務に加え、学内での教務連絡主任、センター試験監督、他講座科研費申請指導委員などを行なった。科研費指導研究では将来的な研究方針などについての助言も求められ現在も引き続き指導している。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安里 剛	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	大学院教育(講座内研究生指導)、学部学生教育(生化学・分子細胞生物学講義、生化学実習、実習レポート評価、各種問題作成等)を分担する。学部講義は今年度も再編成されたため新たな教育効果向上策を探る。			0.40	大学院博士課程研究生の研究の指導や助言、学部学生に対する生化学・分子細胞生物学の講義、生化学実習の教材(動画)作成や実地指導、実習レポートの評価、各種問題作成等を遂行した。		
研究	0.40	講座内外の教員、講座所属の研究生らと協力して研究を進める。他施設との交流をも通してレベルの向上を図り、得た知見の発信(論文発表等)や外部資金の獲得を目指す。			0.40	他施設であるOISTも含む講座内外のメンバーと協力して研究を進め、これまでの知見をまとめた論文投稿準備を進めた。共同研究論文、学会発表も行った。		
社会貢献	0.10	研究が最終的には民間をへて社会や地域へ還元されるよう心がける。			0.10	ベンチャーを立ち上げた共同研究者とも連絡を取り相談に乗った。		
管理運営	0.10	節電・節水など講座内環境の整備維持に務める。			0.10	講座内環境の整備を遂行した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野中 公子	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	医学研究科での教育は、教室の研究生の実験指導、医学科での教育は生化学実習等を他の教員とともに担当する。生化学実習では昨年度におとらぬ学習水準を保つよう努める。学生支援としては、大学院研究生や学部学生の相談に応じて、女性研究者・臨床医としての経験に基づく助言を行う。		0.40	博士課程研究生の実験援助、医学科学部生の実習準備や現場指導に勤めた。支援としては女性研究者や女子学生に助言した。			
研究	0.50	科学研究費をもとに教室の他の教員、研究生、他講座スタッフ、他施設研究者と共に研究を進め、学会、研究会で情報交換するとともに、論文の発表、外部資金の獲得につとめる。		0.50	獲得した科学研究費で自ら計画していた研究を行った。OISTとの共同研究にも参加した。研究会での情報交換も行った。			
社会 貢献	0.05	すでに出身臨床講座の業務支援も行っているが、臨床現場で使える知見を得る研究をおこなう。		0.05	一般病院レベルで有用な検査などに結びつく研究に勤めている。出身臨床講座の本学附属病院外来で毎週支援活動をしている。			
管理 運営	0.05	動物、試薬・機器の円滑な維持管理につとめ、環境負荷軽減をはかる。		0.05	所属研究室が保有する多くのノックアウトマウスの維持管理、書類整理などを担当した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		山本 秀幸	所 属	大学院医学研究科・生化学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.45	医学部医学科1年次学生の医学概論Aおよび分子細胞生物学、2年次学生の医学英語の講義および実習を担当する。分子細胞生物学の講義では、教科書とスライド、および資料を用いて医学科学生に最適な内容を講義するように努める。資料は学生のWebClassに載せる。大学院医学研究科の基礎医学概論(修士課程)および分子細胞生物学概論とプロジェクト関連科目(博士課程)の分担講義を担当する。医学科教務委員会委員長、医学教育企画室室長、医学科6年次の指導教員として学生支援を行う。		0.45	医学部医学科1年次学生の医学概論Aおよび分子細胞生物学の講義と実習、2年次学生の医学英語の講義を担当した。分子細胞生物学の講義では、教科書とスライド、および資料を用いて医学科学生にわかりやすい講義をするように努めた。資料を自学自習のために学生のWebClassに載せた。大学院医学研究科の基礎医学概論(修士課程)および分子細胞生物学概論とプロジェクト関連科目(博士課程)の分担講義を担当した。医学科教務委員会委員長、医学教育企画室室長、医学科6年次の指導教員として学生支援を行った。	
研究	0.35	国際神経化学会、生化学会および神経化学会に出席し研究成果を発表する。会場での討論により研究者間での情報交換を行う。大学院博士課程の学生4名および教室員の研究教育を指導し、生化学・細胞生物学・薬理学系の雑誌でインパクトファクターの高い雑誌への論文の採択を目指す。科学研究費補助金基盤Cの採択に加えて、様々な外部資金獲得を目指す。		0.35	国際神経化学会(開催地パリ)、日本生化学会および日本神経化学会に出席し研究成果を発表した。会場での討論により研究者間での情報交換を行った。大学院博士課程の学生5名および教室員の研究教育を指導した。大学院学生1名の論文がPulmonary Pharmacology and Therapeuticsに受理され、学位を取得した。	
社会貢献	0.05	薬理学に関連する企業との共同研究を計画し、研究成果の社会への還元を目指す。要請があれば、CBTモニター委員として大学間共用試験の実施に貢献する。		0.05	薬理学に関連する企業との共同研究を行い、研究成果を学会で発表した。1月と2月にCBTモニター委員として大学間共用試験の実施に貢献した。	
管理運営	0.15	医学部RI実験施設長として施設の管理を行う。医学科教務委員会委員長および医学教育企画室室長として学生の教育に携わる。入試委員会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員としてそれぞれの審議を行う。医学教育分野別評価検討委員会の主任として分野別評価を受ける。		0.15	医学部RI実験施設長として施設の管理を行った。医学科教務委員会委員長および医学教育企画室室長として学生の教育に携わった。入試委員会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員としてそれぞれの審議を行った。医学教育分野別評価検討委員会・準備委員会の主任として分野別評価を受けた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		吉見直己	所 属		医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	1. 病理学I 講義と実習を担当するとともに、病理総合学習と医科学研究実習の充実を語る。2. 臨床実習の継続と病理医育成を視野にシステムの充実を語る。3. 大学院院生に関しては学会発表と論文指導を語る。4. 診療にも関わるが、病理解剖検討会を開催と研修医CPCを実施し、医療の質を確保する。5. 五年次学生の指導教員として対応する。		0.25	1)に関しては、4名の医科学実習を受け入れた。2)に関しては、5名の将来の病理医希望者を、恒例である九州支部主催の病理の学校に派遣し、九州地区の学生らとの交流を計った。3)では病理学会と臨床細胞学会に発表と派遣した。また、来年度の新規院生希望者は1名を予定している。
研究	0.20	1. 継続研究であるAMEDからの研究費獲得を目指す。2. ラオス支援研究を実施する。3. 国立高専との共同研究を目指す。4. 社会貢献とも関わるが、第34回日本毒性病理学会と第33回日本臨床細胞学会九州連合会の開催を沖縄で実施する。		0.20	継続研究のAMEDのものは、順調に進んで、来年度が最終となる予定である。2)では従来実施した成果をIF3.6の雑誌にアクセプトされた。4)では、内閣府食品安全委員会と共催した市民公開講座も実施し、下の社会貢献にも関与した。昨年度から国・県から医療介護総合支援基金からの予算獲得もできた。
社会貢献	0.15	1. 第34回日本毒性病理学会と第33回日本臨床細胞学会九州連合会の開催をする。2. 沖縄県医師会の事故調査委員として、特に病理解剖の関して参画する。3. 県立宮古病院のは剖検症例の実施により、初期研修施設認定にも貢献する 4. 同様に本島での民間病院での病理診断と剖検業務に貢献する。		0.15	すべて実施した。また、上述のように市民公開講座の開催も実施し、50名程度の参加者を得た。
管理運営	0.15	1. 病院長補佐としての職務を担当するとともに、上記の社会貢献に関わるが、沖縄県医療の基盤としての病理診断連携のための基盤作りを目指す。2. 専門医機構のなかで、沖縄県唯一の病理専門医プログラムを基盤病院として遂行する。3. 昨年度末に疫学系との統合された医学系臨床研究倫理委員会委員長として基盤整備を目指す。4. 中期目標のうち、臨床研究に関するプログラム遂行のまとめ役を担当する。		0.15	すべて、実施している。特に臨床研究倫理委員長として、他の倫理委員会、特に疫学倫理委員会との統合に対して、体制作りを準備している。
診療	0.20	1. 今までの実施していた県立宮古病院及び八重山病院の遠隔術中病理診断を継続するとともに、28年度に採択された沖縄県地域医療介護総合確保基金事業による沖縄県連携病理診断センターを軌道に乗せる。2. 病理診断科科長として病理診断を遂行する。		0.25	昨年度の補正予算で採択され、3年計画で採択された沖縄県地域医療介護総合確保基金事業による2年目で実質的に沖縄県連携病理診断センターを立ち上げ、特に県内の肺癌における分子標的治療薬への対応を円滑に実施し、地域完結型治療として、がん診療として貢献を開始するとともに、病院収入として大学の外部資金獲得に貢献し始めた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		松崎 晶子		所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	ポリクリ／病理学の授業を通じて、学生の病理学ひいては疾病の理解を助ける。ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせる。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行う。また、2年時の医学英語の授業を担当し、医学論文の読み方などを手ほどきする。		0.30	ポリクリ／病理学の授業を行った。ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせた。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行った。また、2年医学英語の授業を担当し、医学論文の読み方などの手ほどきを行った。当講座の医学英語を履修した学生は、病理学の授業でもせいき優秀だった。		
研究	0.30	日本病理学会での外科病理症例の発表を予定。外科病理症例で、問題症例や希症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスを行い検討し、稀症例については研究会や学会での発表を行う。		0.30	日本病理学会での外科病理症例の発表した。外科病理症例で、問題症例や希症例については消化器外科／内科との合同カンファレンスを行い検討した。		
社会 貢献	0.10	県内各病院の病理診断・病理解剖に従事する。		0.10	県内各病院の病理診断・病理解剖に従事した。		
管理 運営	0.10	講座内および病理部における大学院生・研修医に対する管理・ミーティングを行う。委員会に所属し、CBTや医師国家試験問題作成などを行う。		0.10	講座内および病理部における大学院生・研修医に対する管理・ミーティングを行った。委員会に所属し、CBTや医師国家試験問題作成などを行った。		
診療	0.20	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスや学外での勉強会へも参加、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行っていく。		0.20	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスや学外での勉強会へも参加、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行った。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		加留部 謙之輔	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	学生に対する講義および実習において、まとまりのある資料作りと分かりやすい説明を心がける。		0.30	2年生の講義および実習に関わり、基礎研究で学生に研究指導も行った。学生からの授業評価では常に高い評価を得ている。	
研究	0.40	「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるJAK-STAT経路活性化の意義」のテーマで日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)に採択された。このテーマの研究を継続する。成人T細胞白血病に関連するゲノム解析の研究を開始する。		0.40	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫に関しては、病理学的所見、臨床所見、遺伝子異常の所見をほぼ網羅的に解析した。現在、研究協力病院からの症例の追加をもって、論文発表を行っていく予定である。成人T細胞白血病の研究においても、同様に臨床病理学的、遺伝子学的な視点から解析を進めている。	
社会 貢献	0.05	研究成果について、広く一般に情報発信する。		0.05	地域の研究会に参加し、講演を行い、議論に参加した。	
管理 運営	0.05	倫理委員会、入試委員会、学生委員会、人事に関する委員会など、計7つの委員会を担当している。病理部長を兼任している。		0.05	委員会委員として多くの運営業務に携わった。病理部の環境改善に関し、臨床各科との交渉や新規機器の導入に携わった。	
診療	0.20	病理診断医として大学病院の診療に携わる。		0.20	病理診断医として約1500件の外科病理診断に関わり、大学病院の診療に携わった。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜瀬 真雄	所 属		医学研究科 衛生学・公衆衛生学講座	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	医科学研究の希望者がいれば対応する		0.10	医科学研究(M3)の学生指導を行った			
研究	0.05	科学研究費助成事業に応募する		0.05	科学研究費助成事業に応募した			
社会 貢献	0.80	エコチル調査関連業務を行う		0.80	エコチル調査関連業務を遂行した			
管理 運営	0.05	試験監督や委員会委員の補助を行う		0.05	試験監督や委員会委員の補助を行った			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	石田 肇		所 属	医学研究科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	解剖学実習前の説明を行うとともに、献体の所見を把握させ、口頭試問を1回増やし、実習の質を上げる。解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行う。6年次で実施する局所解剖学実習では、臨床系講座の参加を促し、臨床に即した実習を行う。3年次の医科学実習では、県外調査の機会を与え、短期留学を考える。さらに、Webclassを充実させ、授業前にスライドをアップすることにより、学生の自主学习を促す。		0.20	1年次後期の実習となったことを勘案し、解剖学実習前の説明を行うとともに、献体の所見を把握させ、口頭試問を1回増やし、形成的評価を増やし、解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行った。6年次で実施する局所解剖学実習では、臨床系講座の参加を促し、整形外科10名ほどの参加を得て臨床に即した実習を行った。3年次の医科学研究では、担当する学生がいなかった。Webclassを充実させ、授業前にスライドをアップすることにより、学生の自主学习を促した。
研究	0.20	時空間ゲノミクス(概算要求)、基盤研究A(分担)、新学術領域研究(分担)などを基に臨床系、北海道大学および長崎大学等と連携し、琉球列島の人々の形態学、遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学、生物学などの形質人類学研究を進め、アメリカ形質人類学雑誌等のインパクトのある雑誌への投稿を行い、受理を目指す。医学研究科並びに他大学などとの共同研究を進め、概算要求や大型科研費の申請を行う。戦没者遺骨鑑定(分担)についても同位体分析等の研究を進める。		0.15	研究費を基に臨床系、北海道大学および長崎大学等と連携し、American Journal of Human Biology, Human Genetics, Surgery Today, Plos ONEなどに論文が出版された。医学研究科並びに他大学などとの共同研究を進め、概算要求や大型科研費の申請を行った。JSPSのcore to coreはヒアリングまで進んでいる。
社会 貢献	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図る。厚生労働省から沖縄戦没者遺骨鑑定を依頼されているので実施する。研究のところで記載したが、鑑定のみならず、基盤研究として進める。		0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力を実施した。とくに、骨学実習や解剖学実習見学により、系統的理解を図った。厚生労働省から沖縄戦没者遺骨鑑定を依頼されているので実施した。
管理 運営	0.50	医学部長・医学研究科長として、医学部の教育研究を推進する。12月の医学教育分野別認証を受審し、より良い医学教育を進める。臨床医学と基礎医学、保健医学との共同研究を推進する必要があるため、例えば、先端医学研究センターにおける臨床と基礎の橋渡し研究体制の強化、整備を進める。医学部・附属病院の西普天間への移転に向け、基本設計に入るため、副本部長として、その任務に当たる。		0.55	医学部長・医学研究科長として、医学部の教育研究を推進した。12月の医学教育分野別評価のため、書類を作成し、受審した。今後、より良い医学教育を進める。臨床医学と基礎医学、保健医学との共同研究を推進する必要があるため、例えば、先端医学研究センターにおける臨床と基礎の橋渡し研究体制の強化、整備を進めている。医学部・附属病院の西普天間への移転に向け、基本設計に入るため、副本部長として、その任務に当たっている。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		泉水 奏	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	肉眼解剖、基礎配属の6年次実習に於いて、肉眼解剖の観察事項に関し組織学、生理学的観点から、総合的に理解できるよう指導説明をおこなう。また、学生の学習意欲が高まるよう、学史的観点も含め臨床との解剖学の関連についてさらに指導説明する。		0.40	教育連絡主任として会議も業務も無かった。肉眼解剖、基礎配属の実習に於いて、肉眼解剖の観察事項に関し組織学、生理学的観点から、特に臨床との関連について理解が深かまるよう指導説明した。	
研究	0.40	輸卵管内と外部に放出した卵の細胞内pHと細胞内の生理生化学的変化の研究を進める。また、昨年投稿に至らなかった細胞外pH上昇による卵受精能獲得に関する論文の投稿し、さらに追加の実験を含め卵膜上昇に於ける膠質浸透圧の関与に関する論文の投稿準備をすすめる。科研の申請を行う。		0.40	輸卵管内と外部に放出した卵の細胞内pHと細胞内の生理生化学的変化については若干の進展があったが、論文の投稿の準備は滞りままである。	
社会 貢献	0.20	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い臨床的な関連を含め人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献する、		0.20	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義をおこなった。	
管理 運営	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		山城 哲	所 属	医学研究科細菌学講座		職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	琉球大学医学部医学科の目標および履修要項に沿った、医学部細菌学講座が担当する細菌学シラバス全体の監督、講義および実習を担当する。また、カリキュラムの一環としてのM2学生を対象とした医学英語を開講し、M3学生を対象とした3か月間の医科学実習を実施する。本年度より医学教育企画室員として医学部における教育の計画、立案及び評価に携わる。本年度より博士課程大学院学生の指導を開始する。		0.35	医学部細菌学講座が担当する細菌学シラバス全体の監督、講義および実習を担当した。医学教育の水平的統合の一環として、細菌学、ウイルス学、寄生虫学、免疫学を統合し、微生物・免疫学コースが設立されたが、そのコーディネータとして貢献した。医学教育分野別評価のための自己点検評価報告書の「プログラム評価」の項目を作成し、評価委員に対する説明および質疑応答を担当した。M2学生を対象とした医学英語を開講し、またM3学生を対象とした3か月間の医科学実習を実施中である。博士課程大学院学生のテーマを設定し、倫理委員会の承認を得た。6年次の指導教員として年次別懇談会を2回開催した。医学教育評価委員長の任を務めた。		
研究	0.35	英文誌に5編程度の投稿を目標とする。細菌学会、熱帯医学会、および日米コレラ分科会の評議員またはパネルとして学会運営運営に関与する。琉球大学熱帯生物圏研究センター、および長崎大学熱帯医学研究所 (AMED委託経費)、感染研(科研A)との共同研究を実施する。		0.35	平成29年4月1日より平成30年1月4日現在で、合計6編の英語論文が英文誌において出版または受理された。そのうち3編でレスポンスオーサーを務め、1編でラストオーサーを務めた。第58回日本熱帯医学会で「日本熱帯医学会学会賞」を受賞した。		
社会貢献	0.10	沖縄県が所管する沖縄感染症研究拠点形成促進事業に関する審査委員として、同補助事業の推進に関与する。沖縄県医師会等が主催する講演会、または運営する雑誌の記事等への寄稿を実施する。琉球医学会の会計幹事として会の運営に携わる。		0.10	第70回細菌学会九州支部会の主催で、一般市民向けの市民公開講座で講演を行った。琉球医学会の会計幹事として会の運営に関与した。		
管理運営	0.20	学務委員として、医学部医学科の学務関連業務を行う。学生生活委員として、学生生活の充実に関わる。医学教育企画室委員として、医学部における教育の計画、立案及び評価に携わる。医学教育分野別評価対策員として、本学医学部医学科の認証に寄与する。福井学部長として医学部の移転および基礎医学教育全般に関与する。		0.20	学務委員会、教務委員会、医学教育評価委員会(委員長)、琉球大学医学部病原体等安全管理委員会(委員長)、学生生活委員会で活動した。医学科移転準備室長として移転関連業務に従事した。その他移転準備策定医学科、ワーキンググループ員として移転業務に関与した。医学部副学部長として医学部長の補佐を行った。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		TOMA CLAUDIA	所 属		大学院医学研究科・細菌学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	①新たな知見や研究成果を学生に伝えられるように講義資料を改善する ②学生からの積極的な意見の聴取		0.30	①医学部の新カリキュラムに伴い、講義の資料を変更し改善した ②微生物・免疫学(総合)の講義で研究の紹介を行った ③医学外国語クラスを担当した ④医学部、4年次の指導教員として学生を支援した
研究	0.60	①学会誌への投稿 ②学会での報告発表 ③外部資金の獲得 ④所属部外局以外との共同研究		0.50	①国際誌へ論文を投稿中 ②11月にレプトスピラ国際学会で口頭発表、3月の第91回日本細菌学会総会にてスピロヘータのワークショップで講演予定 ③科研費基盤研究(C)と沖縄県の事業を継続、宇流麻学術研究助成金の獲得 ④ 沖縄研究奨励賞を受賞 ⑤ 特許を出願
社会貢献	0.15	市民公開シンポジウムの開催		0.10	地域貢献としての具体的取り組み:「沖縄感染症拠点形成事業」の一環として、海軍病院、フィリピン大学、沖縄県衛生環境研究所と合同セミナーを行い、レプトスピラ症の対策について講演、議論した。
管理運営	0.05	日本脳炎ウイルス生態学研究会の運営		0.10	①5月に行われた日本脳炎ウイルス生態学研究会の運営を行った ②医学科医学教育評価委員 ③卒業コンピテンスWGグループ(国際性)
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		當 眞 弘	所 属	大学院医学研究科 寄生虫・免疫病因病態学	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	学部学生に対しては、「寄生虫学」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。大学院医学研究科博士課程講義「免疫病因病態学特論Ⅰ,Ⅱ」では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている本学の強みとなる基礎研究推進の一端を担ってもらう。		0.30	学部・大学院教育に関しては目標を達成した。さらに内容を充実させ、問題があれば改善を行う。	
研究	0.30	講座スタッフおよび学内・学外共同研究者と共に研究論文2編の国内外学術雑誌への投稿・採択、及び関連ある国内外の学会での発表1回を行う。関連する分野の外部資金の獲得を目指す。		0.30	国外英文原著論文1編が掲載された。植物由来の抗菌活性物質に関する研究については、投稿予定の論文1編を作成中である。また、ジャパンローヤルゼリー(株)との「植物由来の抗菌活性物質に関して」の共同研究を継続している。	
社会 貢献	0.10	名桜大学看護学科では「原虫・医動物感染症」、沖縄県看護大学では「医動物学」の講義を非常勤講師として行う。		0.15	名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行った。同じく沖縄県看護大学で「医動物学」の講義を行った。市民公開講座での講演1回を行った。	
管理 運営	0.15	寄生虫・免疫病因病態学講座の一員として、管理・運営に努める。また、医学部医学科教育連絡主任として管理・運営に協力する。		0.15	講座の一員として、教室の管理・運営に努めた。	
学生 指導	0.10	医学科6年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面に対して、きめ細やかな指導を行う。また、ダイビングクラブの顧問として、学内・学外活動に対して、特に安全面に考慮した指導を行う。		0.10	受持ち学生と個々に面談を行い、修学面、生活面の指導を行った。ダイビングクラブは今年1年無事故で活動することができた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	村上 明一	所 属	大学院医学研究科 寄生虫・免疫病因病態学講座	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	寄生虫・免疫病因病態学講座が行う医学部生への教育補助、また、博士課程学生への教育に積極的に参加し、博士論文作製を指導する。		0.30	寄生虫学実習や大学院講義等の医学部教育業務を積極的に行った。医学部基礎配属プログラムで当講座に配属された学生、当講座や共同研究を行っている講座の大学院生の研究・実験を積極的に指導した。
研究	0.50	新規抗体作製技術の研究を深め、国内外の学会で発表を目指すとともに、国際紙への論文投稿を目標とする。さらに、現行の抗体研究シーズさらにファージ治療シーズを発展させ、公的な研究費獲得のみならず、企業との共同研究を進めることで、多くの外部資金の調達を目指す。		0.50	試験管内進化法などを用いた新たな抗体作製技術の研究を深め、生物物理学会等で発表し、国際紙への論文投稿に向けたデータを蓄積した。新たなファージ治療シーズを発展させるべく、研究を開始した。企業との共同研究を順調に進めている。
社会貢献	0.10	生物学的製剤を用いた検査系・治療系発展のために、基礎的な実験データを集め、その成果を日本免疫学会学術集会、日本分子生物学会年会等で発表する。また、国際紙で発信する。		0.10	研究対象である抗体を活用した検査系・治療系発展のために、研究成果を日本免疫学会学術集会、日本分子生物学会年会、生物物理学会、BioJapan等で発表した。また、製薬企業を含め多くの企業にラクダ科抗体の性能や作製技術に関してプレゼンテーションを行った。
管理運営	0.10	寄生虫・免疫病因病態学講座の薬品管理および機器管理を行う。当講座の研究資金に関する運営を行う。入試監督等、琉球大学全般としての職務を進んで実行する。		0.10	寄生虫・免疫病因病態学講座の薬品管理および機器管理、研究資金に関する運営を行った。センター入試業務や医学部生CBTの試験監督等、琉球大学全般としての職務を進んで実行した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中勇悦	所 属		大学院医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	学部学生および大学院学生の免疫学および感染免疫学について講義、セミナー、演習、実習を行い、免疫学の基礎知識の修得をさせ、さらに最先端の免疫学の紹介を通して免疫学に興味をもってもらえるような教育を行う。また、短期留学生に授業として躰道を教える。			0.20	目標を概ね達成した。		
研究	0.60	外部から調達した研究資金を基盤として、HIVとHTLV感染症克服を目的とした基礎研究を積極的にを行い、研究成果を論文として発表する。さらに、国内外の研究者との交流を図り、共同研究を進める。			0.60	目標を概ね達成した。		
社会 貢献	0.05	ウイルス感染診断および研究用キットの開発に努め、広く社会に貢献できるようにする。			0.05	目標を概ね達成した。		
管理 運営	0.05	免疫学講座の長として、講座の進展に心がける。また学内各種委員会の役目を果たす。また、委員会委員を責任感を持って務める。			0.05	目標を概ね達成した。		
その他	0.10	担当する懇話会学生が5年生なので、学生生活の相談にのる。また、琉球大学躰道部の顧問および監督として躰道の指導を責任をもっておこなう。			0.10	目標を概ね達成した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大野真治	所 属		大学院医学研究科ウイルス学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・担当分野の講義・実習 ・医科学研究の学生への指導 ・学生からの講義・実習への意見聴取とフィードバック ・担当学生(5年次学生)の相談への対応 ・博士課程大学院生への指導 		0.40	左記の目標は達成できた			
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・学術誌・学会への発表 ・学内外の研究室との共同研究 ・外部資金の獲得 		0.30	学外との共同研究により学会発表・論文発表を行った。民間財団から2件の助成金を獲得した。			
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・所属学会・研究会の会員として学会・研究会の発展に貢献する 		0.15	第54回日本ウイルス学会九州支部総会を主催した。学会・研究会に参加し、ほかの研究者と情報交換した。分担執筆した微生物関係の教科書が出版された。			
管理 運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・責任講座の管理・運営に努める ・各種委員会活動において職責を全うする ・講座横断的な会合を行うことで、大学の感染症研究を活性化する 		0.15	左記の目標は達成できた			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		只野昌之	所 属		医学研究科医学研究科ウイルス学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	担当するウイルス学、医学外国語などの講義では学生の発表等を積極的に促し、一方的な授業形態にならないようにする。また、受講生に専門教科に興味を持たせ、今後の専門教育課程に入り易いような授業を目指す。指導教官としての職務を遂行する		0.50	目標通りに実施した。左記に加え、「亜熱帯医学概論」(大学院対象)も行った。
研究	0.40	沖縄県委託事業の沖縄感染症研究拠点形成促進事業(創薬開発研究分野)「ウイルスワクチンを安心安全に生産するための先端遺伝子工学技術の開発」(H27-H29)において分担研究者として参加している。本研究プロジェクトで試作されたワクチン候補の評価、特に免疫応答と防御効果を検討する。		0.40	目標通りに実施された。加えてウイルス感染の発病病理解明のためのマウス感染材料を調整し、宮崎大・山口教授に提供した。
社会貢献	0.05	名城大学・看護課程、沖縄看護専門学校の微生物学講義を担当。日本脳炎ウイルス生態学研究会の事務局担当。沖縄県と農林水産省の取り組みで行われている「再生水(下水処理水)利用による沖縄型水循環システム導入」におけるリスクコミュニケーション検討部会への専門家としての参加。沖縄総合科学研究所・病原体等安全管理委員会の委員長担当。		0.05	目標通りに実施した。
管理運営	0.05	教育連絡主任及びその他の委員会委員の職務担当。		0.05	目標通りに実施した。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	斉藤美加		所 属	医学研究科	
職 名			助 教		
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.10	ウイルス学実習の準備・実施・指導・評価を行なう。基礎配属の学生指導、評価を行う。技術補助員として4名の学生(医学研究科博士1名、理工学研究科博士1名、理工学研究科2名、医学部生1名)に、感染症事業および科研費研究で行なう研究の指導、支援を行なう。		0.10	ウイルス学の準備・実施・指導・評価を行った。担当箇所指導と評価のポイントを絞り、他教員と共有した。レポート評価を行った。技術補佐員7名に感染症事業と科研費研究で行う。細胞培養、網羅的病原体遺伝子検出研究、解析、データベース作成、試料管理システム構築の指導と支援を行ったにおいて、理解し、作業ができるようになった。
研究	0.65	外部資金①沖縄感染症研究拠点形成促進事業H27-29「動物媒介性感染症対策の沖縄での施策提言とネットワーク形成に関する研究」蚊媒介性疾病病原体探索-遺伝学的生物学的多様性とリスク評価 蚊班班長として研究機関(酪農学園大学)、県衛生環境研究所、北部家畜保健衛生所、県家畜改良センター、沖縄コンベンションビューロー、企業(南西環境研究所、琉球インタラクティブ)らとのネットワークにより、研究を実施し統括する。②科学研究費基盤C(H28-H31年度)「沖縄のコウモリに関する感染症生態学の高感度網羅的遺伝子探索による解析」 琉球大学時空間ゲノムプロジェクト「洞窟性コウモリの感染症生態学解明のための食性調査」研究代表者として琉球大学戦略的研究プロジェクトセンター、研究企画室との共同協力により研究を実施する。		0.60	外部資金①沖縄県感染症研究拠点形成促進事業H27-29「動物媒介性感染症対策の沖縄での施策提言とネットワーク形成に関する研究」蚊媒介性疾病病原体探索-遺伝学的生物学的多様性とリスク評価 蚊班班長として研究機関(酪農学園大学)、県衛生環境研究所、県家畜改良センター、八重山家畜保健所、企業(南西環境研究所)、北海道大学、琉球大学時空間ゲノムプロジェクト(戦略的研究センター)、熊本大学のネットワークにより、研究を実施した。②科学研究費基盤C(H28-H31年度)「沖縄のコウモリに関する感染症生態学の高感度網羅的遺伝子探索による解析」 研究代表者として、琉球大学戦略的研究センター、研究企画室との共同により研究を実施した。①②研究成果を国内学会2回、国際学会2回、シンポジウム3回(内1回予定)、発表した。座長1回つとめた。八重山地域(平和祈念館、保健所、家畜保健所ネットワーク)での調査を開始した。
社会貢献	0.20	沖縄における蚊媒介性感染症リスク評価(主にデング、ジカ)を県担当者及び、観光関係者と行ない、助言する。沖縄県食肉衛生研究会審査員(学識経験者)として食肉の安全向上に寄与する。世話人(代表)として第52回日本脳炎ウイルス生態学研究会沖縄開催を行い、研究会運営委員として運営に寄与する。市民向け公開講座で研究成果を還元し、感染症予防対策に寄与する。		0.25	沖縄における蚊媒介性感染症リスク評価定例会(県担当者)での成果報告、リスクマップ作成ワークショップ(観光、環境、行政、学、獣医、公園等対策関係者)世話人(企画、実施、報告)を通じて、蚊対策について、啓発および、話し合いを行った。研究成果を通じ、施策提言。沖縄感染症シンポジウム(市民公開講座)での講演、八重山家畜保健所での八重山での研究成果報告、県内セミナーでの講演で研究成果の還元。沖縄県食肉衛生研究会審査員(学識経験者)として食肉の安全向上に寄与。第52回日本脳炎ウイルス生態学研究会世話人(代表)開催 85名(うち県外54名、演題25)国立感染症研究所所長、長崎大学熱帯病研究所所長、神奈川県衛生研究所所長など、第一級蚊媒介性ウイルス研究者が集った。その後公開シンポジウムに参加、市民へ還元した。世界モスクイトディNO MORE MALARIA JAPAN主催イベントで八重山戦争マラリアと防遏の歴史について講演した。http://www.infection.okinawa/user.php?CMD=11540190000000
管理運営	0.05	感染症法に関連した特定病原体の教室出入関係者への取扱教育訓練、教室が保管する特定病原体管理を行う。		0.05	教室特に実験室に入室する研究補助員、研究等補佐員、共同研究者を対象に感染症法に関連した特定病原体の取扱教育訓練を行い指導した。感染症法に関わる改善を行った。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		大城 絢子	所 属		大学院医学研究科 臨床研究教育管理学講座
			職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.35	臨床研究マネジメント人材育成のために、臨床研究教育管理学講座の大学院生、臨床研究インテンスブフェローシップ受講生、臨床研究教育管理センター利用者の研究推進のためのマネジメント(勉強会・セミナー・ワークショップ・出張カンファランスの企画)を実施する。新専門医研修プログラムや一般病院の後期研修プログラムとの連携や臨床研究の卒前教育の導入も検討する。		0.45	当初の予定通り、大学院生やフェローシップ受講生をはじめとした臨床研究教育プログラム参加者を対象に研究合宿や臨床研究関連セミナーを実施した。(参加者の多くは学外の医療機関へ所属)さらに県内の主要医療機関との後期研修医プログラム1-2年との連携を開始した。このモデルは他医療機関への啓蒙にも貢献できたと考える。
研究	0.20	「臨床研究マネジメント人材育成プログラム参加者からのアンケート集計結果と既存の社会人教育モデルをもとに、臨床研究教育分野における教育モデルを表現していく」という研究をテーマに発表し、また科研費の獲得を目指す。		0.10	当初予定していた論文は採択に至らなかったが、内容を見直し来年度再度投稿する。学会へは当初の予定通り発表済み
社会 貢献	0.20	琉球大学医学部附属病院や臨床研究マネジメント人材育成プログラムの連携医療機関のみならず、県内外よりプログラム受講者を受け入れ、国内の臨床研究力の向上に貢献する。さらにその成果を沖縄県や文部科学省・臨床研究関連の学会へ積極的に報告し、活動の継続へつなげる。		0.20	当初の予定通り県内外よりプログラム受講者を多く受け入れ、沖縄県へ報告し、マネジメントしているプロジェクトと県内の医師確保連携に向けて提案できた
管理 運営	0.25	「臨床研究マネジメント人材育成」プログラムの進捗や予算の管理委員会への定期的な活動報告や成果の発信、組織内で情報を共有する。		0.25	当初の予定通り管理者の所属する委員会へ定期的な活動報告や成果の発信、組織内で情報を共有した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		村山 貞之		所 属		大学院医学研究科 放射線診断治療学講座		職 名		教授	
領域		業務 ウェイト比 (予定)		平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)		平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・学生支援		0.10		卒前教育:毎週のポリクリ、クリニック時の教育、M3, 4に対する放射線医学の講義 卒後教育:毎週の放射線科の症例検討会 逐次の専門修練医の教育。M4-M6学生に対してポリクリ時、クリニック時に進路指導を行う。担当指導教官として指導を行う。		0.10		クリニック学生に対して昼食会を行い、進路指導を行っている。充分、目標を達成した。			
研究		0.20		肺癌、感染症、呼吸機能、救急放射線に関する画像診断の研究を進める。新規導入の高精細CTを用いた研究(既に450万の研究費を得ているが、来年度から共同研究講座設置の準備を行う。)320列CTを用いた多施設研究、cine MRIによる肺高血圧症の診断(昨年度から3年間の文部科研費基盤研究(C)を獲得済み)、肺がんのPET,CT histogramによる組織型鑑別・予後予測に力を入れる。		0.20		十分に目標を達成した。共同研究講座の設置が叶い、来年度から特命講師/助教の雇用が可能となった。			
社会貢献		0.20		県内、県外施設に必要な放射線科医の派遣を行う。日本医学放射線学会理事、肺癌学会理事、呼吸機能イメージング研究会代表、呼吸器学会代議員などの学会活動の職務を全うする。		0.10		十分に目標を達成した。			
管理運営		0.40		講座長、放射線科長、放射線部長としての管理業務を指揮する。		0.50		十分に目標を達成した。			
診療		0.10		PET/CTの読影を行う。専門研修医の単純X線写真の画像診断レポートのチェックを行う。		0.10		十分に目標を達成した。			
計		1.00				1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		垣花 泰政	所 属		大学院医学研究科 放射線診断治療学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	大学院生の研究指導			0.25	大学院生の学会発表指導、及び修了予定		
研究	0.25	学会発表、論文発表			0.25	関連学会にて国内、国外で発表		
社会 貢献	0.10	関連学会委員			0.10	医学物理士認定機構のコース認定委員		
管理 運営	0.10	放射線安全委員			0.10	放射線安全委員会		
病院 業務	0.30	放射線治療関連業務			0.30	放射線治療業務に従事		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安座間 喜明	所 属		大学院医学研究科放射線診断治療学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.10	学生指導(講義等)			0.10	ポリクリ、クリクラにて放射線科をローテーションした学生に対し、スライドを用いた講義や当院のシュミレーションセンターの機器を使用したIVRのシュミレーションを行い教育に努めた。		
研究	0.30	学会発表、論文投稿			0.30	IVRをテーマに国内外の学会に参加し、発表を行った。また副腎静脈血サンプリング検査についての論文を作成し、投稿を行った。		
社会 貢献	0.00				0.00			
管理 運営	0.00				0.00			
診療	0.60	IVR治療、読影業務、外来診療			0.60	IVR治療および外来業務、読影業務に従事した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井 寛	所 属	医学部 眼科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	医師になってから役に立つ基本的かつ応用可能な眼科知識を教授し、眼科以外の医学知識の習得に役立つような講義を行う。		0.20	医師になってから役に立つ基本的かつ応用可能な眼科知識を教授し、眼科以外の医学知識の習得に役立つような講義を行った。指導教官として学生との懇談も行った。	
研究	0.20	緑内障の診断、治療に関する臨床研究を行い、後進の指導を行う。外部資金獲得に努力する。		0.20	緑内障の診断、治療に関する臨床研究を行い、後進の指導を行っている。国内外での学会発表、シンポジウムなどを行った。外部資金獲得の書類作成も行った。	
社会 貢献	0.20	専門医、他科医を対象とする執筆、講演等により緑内障の知識を啓蒙し緑内障診療の発展に寄与する。		0.20	眼科医および研修医、他科専門医を対象とする執筆、講演等により緑内障の知識を啓蒙に努めた。日本緑内障学会の依頼に応じて、世界緑内障週間のイベントを県内で開催した。	
管理 運営	0.40	外来医長として、外来診療の向上に努める。回診により病棟患者の管理について監督する。教育、研究について医局員の指導を行う。		0.40	外来医長として、外来診療の向上に努力している。回診を行い病棟患者の管理についても監督している。教育、研究について医局員の指導を行っている。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中西浩一	所 属		医学部 育成医学講座
職 名				教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	診療科長として全ての医局員の教育・学生支援活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。系統講義、ポリクリ指導、オスキー等につき、与えられた時間を活用して最大の教育効果が得られるよう、創意工夫し、実践する。問題解決型教育に取り組み、よりよい医療人育成に努める。可能な限り対話を重視し、個人のプレゼンテーション能力向上に努める。		0.20	診療科長として全ての医局員の教育・学生支援活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。系統講義、ポリクリ指導、等につき、与えられた時間を活用して最大の教育効果が得られるよう、創意工夫し、実践した。問題解決型教育に取り組み、よりよい医療人育成に努めた。可能な限り対話を重視し、個人のプレゼンテーション能力向上に努めた。
研究	0.20	診療科長として全ての医局員の研究活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。特に外部研究費の獲得において自ら積極的に取り組むと同時に医局員を指導する。成果を国内外の学会で積極的に発表し、可能な限り英文の論文にまとめる。臨床研究・試験に積極的に参加し、あらたなエビデンス創出に貢献する。厚生労働省の資金による臨床試験・調査に分担研究者として参加し、本邦のエビデンス創出に尽力する。		0.20	診療科長として全ての医局員の研究活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。特に外部研究費の獲得において自ら積極的に取り組むと同時に医局員を指導した。成果を国内外の学会で積極的に発表し、可能な限り英文の論文にまとめた。臨床研究・試験に積極的に参加し、あらたなエビデンス創出に貢献した。厚生労働省の資金による臨床試験・調査に分担研究者として参加し、本邦のエビデンス創出に尽力した。
社会 貢献	0.15	診療科長として全ての医局員の社会貢献活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。地域における、講演等を積極的に引き受け、高度専門医療の普及に努める。学校検尿において小児腎臓病専門医として参加し、その目標達成に貢献する。地域の病院として、地域の小児医療に積極的に貢献する。地域の病院への人員派遣を通し地域医療に貢献する。厚生労働省等の活動、学会活動、ガイドライン作成などに参画し貢献する。		0.15	診療科長として全ての医局員の社会貢献活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。地域における、講演等を積極的に引き受け、高度専門医療の普及に努めた。地域の病院として、地域の小児医療に積極的に貢献した。地域の病院への人員派遣を通し地域医療に貢献した。厚生労働省等の活動、学会活動、ガイドライン作成などに参画し貢献した。学校検尿において小児腎臓病専門医として参加し、その目標達成に貢献することが今後の課題である。
管理 運営	0.15	診療科長として全ての医局員の管理運営活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。自らも求められる管理運営活動に積極的に取り組み、貢献する。関連諸部門と密に連携を保ち、本学業務が円滑に遂行されるよう努力する。積極的に医療安全の取り組みに発言、参加し、組織全体のリスク管理に貢献する。感染対策委員会委員としてその目標達成に向けて尽力する。入試関連役割分担にも積極的に参加するように努め、業務が遅滞なく進行するよう努力する。		0.15	診療科長として全ての医局員の管理運営活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。自らも求められる管理運営活動に積極的に取り組み、貢献した。関連諸部門と密に連携を保ち、本学業務が円滑に遂行されるよう努力した。積極的に医療安全の取り組みに発言、参加し、組織全体のリスク管理に貢献した。感染対策委員会委員としてその目標達成に向けて尽力した。入試関連役割分担にも積極的に参加するように努め、業務が遅滞なく進行するよう努力した。
診療	0.30	診療科長として全ての医局員の診療活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮する。日本小児科学会専門医として、一般小児科で最善の診療を心がける。日本腎臓学会専門医・指導医として小児腎臓病診療にあたり、高度専門的医療を行う。また、積極的に臨床研究・試験を遂行する。病院経営を理解し積極的に協力する。希少疾患では全国の施設と協力し、積極的に診断を推進し、高度先端医療を行う。国内外関連学会に積極的に参加・発表し、診療にフィードバックする。		0.30	診療科長として全ての医局員の診療活動の監督・指導を行い、適切に実施されるように配慮した。日本小児科学会専門医として、一般小児科で最善の診療を心がけた。日本腎臓学会専門医・指導医として小児腎臓病診療にあたり、高度専門的医療を行った。また、積極的に臨床研究・試験を遂行した。病院経営を理解し積極的に協力した。希少疾患では全国の施設と協力し、積極的に診断を推進し、高度先端医療を行った。国内外関連学会に積極的に参加・発表し、診療にフィードバックした。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		知念 安紹	所 属		医学部 育成医学講座	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.17	M3学生の講義(遺伝先天代謝異常)、各種試験問題作成と管理、倫理討論会の指導者、OSCE医療面接の試験監督、病棟におけるポリクリ学生の指導と講義、研修医の指導、医員の発表・論文の指導、臨床遺伝専門医の研修の医師指導、ポリクリ学生・研修医の進路相談、大学6年生の指導教官としての役割		0.17	M3・M4学生の講義(遺伝先天代謝異常・小児症候学)、テスト問題作成、OSCE医療面接、倫理討論会での学生指導、病棟におけるポリクリ学生、研修医の指導を実施した。ポリクリ学生には症例呈示で鑑別疾患など列挙させて討論を行っている。臨床遺伝専門医の研修医師(産婦人科1名、小児科1名、耳鼻科1名)の指導を実施している。		
研究	0.25	沖縄県の小児希少・未診断疾患イニシアチブ(IRUD-P)研究班による遺伝子解析結果と症例検討、ムコ多糖症における酵素補充療法の効果、沖縄県の新生児タンデムマススクリーニングによる有機酸代謝異常・脂肪酸代謝異常症の疾患予防について、環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の詳細調査		0.27	IRUD-PにおけるBainbridge-Roper症候群の希少疾患、新生児マススクリーニングによるFabry病の診断、イソ吉草酸血症のカルニチン・グリシンの抱合速度に関して3つ英論文受理された。エコチル調査の学会にて市民公開講座を行い、投稿した。沖縄県の新生児マススクリーニングにて早期発見治療を連携して行っている。線維芽細胞を用いた基礎実験を準備している。		
社会 貢献	0.03	新生児マススクリーニングのタンデムマス・スクリーニングを沖縄県に導入し支援体制を構築すること、Down症候群の親の会に対するサポート活動、骨形成不全症の親の会に対するサポート活動、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動		0.03	新生児マススクリーニングのタンデムマス・スクリーニングを沖縄県に導入し支援体制を構築すること、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動		
管理 運営	0.05	栄養管理部運営委員会、診療情報管理センター運営委員会、医療機器安全専門委員会、NSTのサポートおよび6西病棟会議		0.03	栄養管理部運営委員会、診療情報管理センター運営委員会、医療機器安全専門委員会、NSTのサポートおよび6西病棟会議(毎週火曜日)を行っている。		
診療	0.50	新患・先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、他病院および他科から紹介のある遺伝カウンセリングを実施している。		0.50	新患・先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、他病院および他科から紹介のある遺伝カウンセリングを実施している。HBOCについて産婦人科と共同し、遺伝カウンセリングを担当している。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浜田 和弥	所 属		医学部 医学科 育成医学	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	医学部講義(小児アレルギー), 研修医・学生向けレクチャーの定期的な実施		0.15	医学部講義(小児アレルギー), 研修医・学生向けレクチャーの定期的な実施, 臨床研修医, 医学部学生指導を行った			
研究	0.15	臨床研究, 並びに症例報告などの論文執筆, 各種学会(日本アレルギー学会, 小児アレルギー学会, 小児リウマチ学会など)参加・発表		0.15	臨床研究, 症例報告執筆, 各種学会(日本アレルギー学会, 小児アレルギー学会, 小児リウマチ学会など)参加・発表を行った。			
社会 貢献	0.10	学外講義, 学校, 乳児健診などへの参加		0.10	学外講義, 学校, 乳児健診などに積極的に参加した。			
管理 運営	0.10	救急部運営委員会, 医療機器安全管理専門委員会, 児童虐待防止委員会, 放射線部運営委員会		0.10	救急部運営委員会, 医療機器安全管理専門委員会, 児童虐待防止委員会, 放射線部運営委員会			
診療	0.55	附属病院小児科外来診療, 入院患者診療, 小児アレルギー専門診療		0.50	附属病院小児科での小児アレルギー並びに呼吸器疾患を中心とした外来診療, 入院患者診療を行った。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		金城 紀子	所 属		医学部 医学科
			職 名		助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	学部担当科目(免疫, 小児膠原病)を担当し、系統講義、ポリクリ学生に対してベッドサイドティーチング、等を行う。初期研修、後期研修医への研修指導を行なう。		0.30	系統講義およびポリクリ実習等について学生指導を行い、小児科学一般と小児リウマチ・膠原病についての講義・指導を行った。
研究	0.30	小児膠原病に関する臨床研究を積極的に学会発表を行い、論文採択をめざし研究論文を作成する。また、治験へ参加し最新の治療に関しての評価を行う。全国の小児膠原病専門施設との共同研究にて、難治性の小児リウマチ性疾患に対する研究を進めていく。また、難治性・希少性疾患の原因解明についても、多施設共同研究を行う。		0.30	難治性の小児膠原病について、その診断および新しい治療について、他大学と共同研究し、その結果について研究会・学会発表・論文投稿を積極的に行った。さらに、小児リウマチの治療について、英語論文を投稿し採択された。
社会貢献	0.15	小児膠原病に関する診断・治療に関する専門知識をリウマチ専門医として一般小児科医へ啓蒙するために、諸研究会などでの講演を行う。また、患者さんとその保護者の方達に、診断・治療などについて、疾患への理解を深めてもらうように教育講演を行い、定期的に家族会を開催する。		0.15	他病院の小児科後期研修医数名に対して、定期的に専門外来(小児リウマチ膠原病外来)の見学実習(週に1回)を行い、小児リウマチ膠原病の知識の普及に努めた。
管理運営	0.20	医局長として、諸会議に出席し、そこで得た情報を基に円滑な医局運営を目指す。ICD実務者として、感染対策実務者会議に出席し、その情報を医局内に周知徹底させるよう努める。		0.20	医局長として、医局運営を円滑に行うよう努めた。さらに、院内会議や沖縄県小児科医会や沖縄県小児保健協会の委員として活動した。院内では、感染対策委員として、定期的な感染対策委員会への出席と小児科外来および病棟における感染予防に対する啓蒙を行っている。
診療	0.05	市中小児科での一般診療(救急も含めて)を通して情報の収集と診療技術の向上をめざす。		0.05	市中病院での診療を行う事によって、大学では診療できない疾患の情報を得る事ができた。また、他病院の小児科医師との情報交換を行う事ができた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		益崎 裕章		所 属		医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.25	学生・研修医向けの講義・総回診・外来見学実習を中心とする臨床実習を通して教育・指導を徹底する。				0.25	当初の目標を達成できた。				
研究	0.25	教室員の論文指導を通して研究活動を推進し、学会発表、英文論文発表を中心とする成果発信を積極的に進める。国際特許をはじめ、知的財産権の獲得に努める。農林水産省や経済産業省、文部科学省などの大型競争的研究資金の獲得を目指す。				0.25	3件の特許が査定された。 農水省、経産省の大型競争的研究資金を獲得した。				
社会 貢献	0.05	県医師会・県栄養士会・県薬剤師会における講演や指導、全国レベルの学会、研究会における一般市民向け講演会・ウェブ情報発信・新聞やメディアを通じた医療啓発活動に積極的に関与する。				0.05	当初の目標を達成できた。				
管理 運営	0.15	学務委員会委員、栄養管理部長・総合診療センター長をはじめ、院内・学内の各種委員会における職責を全うする。				0.15	当初の目標を達成できた。				
進路 指導	0.05	学生、研修医、教室員に積極的に関わり、進路指導、キャリア・プランニングを支援する。				0.05	当初の目標を達成できた。				
臨床	0.25	総回診や外来実習を中心として、教室全体の臨床レベルの向上と教育・指導を実践すると同時に琉球大学医学部附属病院における高度先進医療の向上・発展に貢献する。内分泌代謝、糖尿病、血液、膠原病リウマチ疾患のエキスパート(専門医)を育成する。				0.25	当初の目標を達成できた。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		森島 聡子		所 属		大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科 科学講座		職 名		准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.15	(1) M3学生への系統講義(血液学総論、白血球疾患とその他の骨髄性疾患、輸血、造血幹細胞移植)を行う (2) ポリクリ学生への指導及びレクチャーを行う (3) 大学院生の教育及び研究指導を行う				0.15	(1) M3への系統講義を、学生が十分理解できるように行えた。 (2) ポリクリ学生には、病棟実習時や症例検討カンファレンスで指導を行い、また毎週レクチャーを行った。 (3) 大学院生への研究指導、論文作成指導を行った。				
研究	0.52	(1) 科学研究費基盤C 研究課題「潜伏感染ウイルスが関与するリンパ系腫瘍の発症と進展におけるHLAの意義の解明」の研究実施 (2) 科学研究費新学術領域研究課題「造血細胞移植に関わる新たなアロ免疫認識機構の解明」の研究実施 (3) AMED研究班(村田班)の研究分担者として遺伝子情報と臨床情報を用いた解析の実施 (3)日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、日本成人白血病研究グループ(JALSG)の多施設共同研究への参加				0.52	(1) 科学研究費基盤C 研究課題「潜伏感染ウイルスが関与するリンパ系腫瘍の発症と進展におけるHLAの意義の解明」については、当講座の大学院生に研究指導を行いながら、実施した。 (2) 科学研究費新学術領域研究課題「造血細胞移植に関わる新たなアロ免疫認識機構の解明」においては、研究を実施し、本研究に関する論文を発表した。 (3) AMED研究班(村田班)においては、研究分担者として研究を実施した。 (4) JCOG, JALSGの多施設共同研究への参加を行った。				
社会貢献	0.02	(1) 沖縄県内の血液内科関連施設との協力して、研究会や勉強会を実施する (2) 日本骨髄バンクが関連した講演会などへの協力				0.02	(1) 沖縄県内の血液内科関連施設と協力して、定期的に研究会と勉強会及び移植検討会等を実施した。 (2) 日本骨髄バンク推進のための、講演を行った。				
管理運営	0.01	(1) 院内のレジメン登録審査委員として活動 (2) 院内の病院経営改善委員として活動				0.01	(1) 院内レジメン登録審査委員として活動した。 (2) 院内の病院経営活動員として、活動した。				
診療	0.30	(1)血液内科に関する診療:外来診療、入院診療、セカンドオピニオン (2)骨髄バンクドナーの骨髄採取(年間10-12回)				0.30	(1)血液内科に関する診療:外来診療、入院診療、セカンドオピニオン等を行った。特に問題なく、充実した診療を行なえた。 (2)骨髄バンクドナーの骨髄採取を安全に行った。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		岡本 士毅	所 属		医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)
			職 名		特命講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.35	大学院生の教育・指導を行う。得られた結果は、速やかに国内学会への発表を促す。		0.35	大学院生の教育・指導を継続的に行っている。10月に第38回日本肥満学会学術大会(大阪)で発表させ、肥満症学「適塾」Awardの受賞を獲得した。また別の学生には来年2月に日本糖尿病・肥満動物学会に参加する予定で発表準備を進めている。10月に大学院生用講義「視床下部AMPKは炭水化物嗜好性を制御する～嗜好性と肥満と減量の脳科学～」を行った。
研究	0.55	今年度中の英語論文執筆に向けて、脳科学に焦点を絞り、研究を進める。得られた成果は国内外学会での発表を行う。科研費を含め、各種助成金、寄付金の獲得を目指し、申請を進めている。		0.55	「炭水化物嗜好性を決定する視床下部ニューロンの同定」に関する研究が、2017.11.30にCell Reportsにacceptされ、2018.1.17にオンライン公開された。同結果は2018.1.17に琉球大学にてプレスリリースを行なった。この嗜好性研究を発展させる新規実験計画で科研費の申請を行っている。また他のテーマに関する研究も立ち上げ、2つの企業からの寄付金を獲得した(MSD, 協和発酵キリン)。
社会貢献	0.10	研究会への参加と企画に携わる(6月、10月予定)。一般科学雑誌の執筆を行う(4月予定)。		0.10	6月「生理学研究所研究会 第2回食欲・食嗜好の分子・神経基盤研究会(食欲・食嗜好研究会)に企画、参加した。9月「自然科学研究機構 生理学研究所研究会臓器相関による生体制御システムとその変容の仕組み」に参加し発表した。 4月実験医学 「恒常的摂食調節機構と食嗜好性制御機構との関連 Hypothalamic innate appetite regulation affects food preference behavior.」を執筆し、収録されている2017年4月号「食欲と食嗜好のサイエンス」が、2017年実験医学 月刊売上ランキングで第2位を獲得した。
管理運営	0.00			0.00	
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		知念 玲	所 属		琉球大学医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	学生対象講義は臨床に即した臨床現場で実践的な内容にする			-	(2017年7月まで)実践(病棟実習)の即した知識が得られる授業になるよう内容を前年度と変更・修正して行った。		
研究	0.35	臨床研究実施中、論文化途中。臨床症例についても学会発表と症例論文の作成。			0.35	学会への発表と現在臨床研究の論文作成中である。		
社会 貢献	0.05	院内院外での糖尿病についての啓蒙活動、またそれに関わる医療スタッフとの連携や勉強会を行っていく。			0.05	1型糖尿病女性の会の講義など患者会への貢献		
管理 運営	0.05	院内・学内の各種委員会における職責を十分に全うする。			-	(2017年7月まで)DPC委員会への出席		
診療	0.30	入院・外来、糖尿病教室において臨床レベルの自身の向上と血糖管理ツールを実践的に患者とともに知識を共有する。			-	(2017年7月まで)療養指導スタッフとの知識の共有を行った。		
計	1.00				0.40			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		砂川 澄人		所 属		医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.15	学生へ基礎講義及び病棟実習を通じた指導教育を行い知識定着を図る。また病棟実習の学生世話役として実習が円滑に進むよう努める。				0.20	内分泌学の系統講義の一部を受け持った。6年次学生のpost CC OSCE(卒業時客観的臨床能力試験)の問題作成グループに参加した。病棟実習(ポリクリ・クリクラ)の全グループの学生に対し第二内科の実習学生担当として研修指導や体調管理を実施した。またポリクリ全グループの学生に対しそれぞれ講義を実施した。				
研究	0.20	肥満・糖尿病患者に対する新たな病態マーカーの検索としてメタボローム解析を引き続き実施する。第二内科の臨床研究として継続中であるキサンチンオキシダーゼ活性測定の研究を引き続き推進していく。				0.30	第二内科の臨床研究としてメタボローム解析の被検者管理を継続して行った。同じく臨床研究であるキサンチンオキシダーゼ活性測定の共同研究に参画し、被検者募集及び検体採取、検体処理及びデータ解析を担当した。first authorとして論文投稿中である。また第二内科の研究チームの一員として同スタッフへ適宜アドバイスを行った。				
社会貢献	0.10	啓蒙活動として全国糖尿病週間に関連する講演会や無料血糖測定会及び健康相談のイベント管理を行う。小児糖尿病の学習行事であるサマーキャンプに参加する。				0.10	小児糖尿病のサマーキャンプに参加し啓蒙につとめた。				
管理運営	0.20	第二内科の副医局長として医局の運営に関わる。第二内科の教育連絡主任として教務委員会に参加したり、臨床実習担当者連絡会に参加する。				0.20	第二内科の副医局長として医局の運営に携わり、病棟で発生する医療リスクの軽減のため医師や看護師と協力して対応した。第二内科の教育連絡主任として教務委員会に参加したり、臨床実習担当者連絡会に参加した。				
診療	0.35	第二内科病棟の内分泌代謝疾患患者への診療に携わる。また病院内の内分泌代謝内科外来にて専門外来診療に携わる。				0.20	第二内科の病棟患者カンファレンスに参加し確定診断や治療方針に対するアドバイスを適宜実施した。また外来にて内分泌・代謝疾患の診療に携わった。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		近藤 毅	所 属	医学研究科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	1. 医学部学生に対し、精神医学系および救急医療の系統講義を行うとともに、臨床実習における総括を行う。 2. 医学研究科学生に対し、精神病態医学、心身医学、社会医学に関連する講義・演習・実習を行うとともに、指導教員として研究指導にあたる。		0.25	1. 医学部学生に対し、精神医学系2コマ・救急医療1コマの系統講義、倫理総合討論・医学概論・TBL各1コマを担当し、臨床実習では総括を行った。 2. 医学研究科大学院生に対し、講義・演習・実習を行い、指導教員として5名の研究指導を行い、1名が学位を取得した。また、社会医学概論、情報医学概論のコーディネーターを担当した。	
研究	0.25	1. 専門領域である精神薬理学的研究で外部資金を獲得し、それらに関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。 2. 臨床精神医学の一般領域における研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。		0.25	1. 臨床精神医学および臨床心理学領域の英文原著4編の作成に関与し、同領域の邦文総説を1編公表した。また、成果を日本臨床精神神経学会等にて発表した。 2. 日本精神保健・予防学会を沖縄にて開催した。また、日本精神科医学会において教育講演を行った。 3. H29より開始となる基盤研究C課題の科学研究費を獲得した。	
社会 貢献	0.10	1. 精神疾患に対する偏見の改善や認識の向上に向けた啓発活動を実践する。 2. 専門家として、学外の委員会への参加を要請された場合に、委員として要請に応える		0.10	1. 自殺予防活動として、県の事業であるかかりつけ医研修等において教育・啓発講演を行った。また、沖縄県自殺対策連絡協議会・沖縄県発達障害連絡協議会、沖縄県いじめ防止対策審議会の委員を務めた。 2. 沖縄科学技術大学院大学人対象研究審査委員会委員長を務めた 3. 日本臨床精神神経薬理学会理事長として、同学会の管理・運営の責務を負った。	
管理 運営	0.15	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行う。		0.15	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行った。 2. 基幹型認知症疾患医療センター長として本センターの管理・運営に携わった。	
診療	0.25	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来(児童思春期外来)を担当し、総合診療科において心身症を中心とした患者の診療を行う。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、初期・後期臨床研修医の診療力の向上を図る。		0.25	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来(児童思春期外来)を担当し、総合診療科では心身症を中心とした患者の診療を行った。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、臨床研修指導を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		三原 一雄	所 属		医学部 医学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	1)学生・研修医が精神的視点を持った診療を理解できるようにする 2)教育連絡主任会議に参画しTBLなどの新たな手法で教育を行う 3)OSCEの医療面接に副責任者として参画する 4)研究内容を教材として用い、教育に反映させる		0.30	1)学生・初期研修医に予診を振り分け本診の陪席させ、精神科診療を理解を深められるように試みた 2)博士課程の大学院生を対象に情報医科学概論の講義を行った 3)OSCE医療面接の責任者として標準患者育成の中心的役割を果たすなど積極的に参画した 4)学生・初期研修医が精神科に興味を持つように、研究内容を紹介した
研究	0.20	1)地方会および全国学会での報告発表に貢献する 2)海外の学術誌へ論文の投稿を行う 3)学会賞あるいは研究費の獲得を目指す 4)全国学会の事務局長として学会を実りある形に運営する		0.20	1)研究グループのリーダーとして全国学会4題の研究発表に関わった。うち2大は優秀プレゼンテーション賞を受賞した 2)全国学会のシンポジストは担当しなかった。 3)論文1編を国外の英文雑誌に投稿し、受理された 4)学会賞・研究助成金は獲得できなかった
社会 貢献	0.05	1)精神疾患の啓発活動に努める		0.10	1)第21日本精神保健予防学会の事務局長として全国学会を運営し、精神疾患の予防および啓発活動を行った
管理 運営	0.10	1)材料部委員会・医薬品安全管理専門委員会などの院内委員会に携わる 2)医師キャリアセンターのセンター員として研修医のメンタルヘルスサポートを行う 3)安全衛生委員会のカウンセラーとして職員の安全と健康の維持・増進に努める		0.05	1)医療材料検討委員会、医薬品安全管理専門委員会に携わった。 2)医師キャリアセンター員として、研修医のメンタルヘルスサポートを行った。 3)カウンセラーとして安全衛生委員会に携わった。
診療	0.35	1)弁証法的行動療法などの新たな診療技術および治療技法の習得に努める 2)精神保健指定医として隔離・拘束等による患者の行動制限の最小化に努める 3)新たな精神保健指定医の教育・育成に努める		0.35	1)難治性統合失調症を対象とした抗精神病薬使用に関するシステム構築に努めた。 2)精神保健指定医として休日・夜間でも病棟からのコールに応じ、行動制限最小化委員会に所属し入院患者の行動制限の最小化に努めた 3)教育・育成の結果、1名が厚生労働省より精神保健指定医に任命された
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		島袋盛洋	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学の講義および臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行う		0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学の講義および臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行った。	
研究	0.10	児童精神医学領域において、症例報告および観察研究を行い、成果を学会等にて発表する		0.10	児童精神医学領域において、症例報告および観察研究を行い、成果を学会等にて発表した。(児童青年精神医学会で発表を行った)	
社会 貢献	0.10	地域住民および地域の精神科関連の専門職に対して 精神疾患患者に対する知識について啓発的介入を行う		0.10	地域住民および地域の精神科関連の専門職に対して 精神疾患患者に対する知識について啓発的介入を行った。(那覇市にて計3回の講義を行った)	
管理 運営	0.10	所属診療科において医局長として診療科長の指導監督の元で診療科の管理運営を行う		0.20	所属診療科において医局長として診療科長の指導監督の元で診療科の管理運営を行った。	
診療 業務	0.50	琉球大学医学部附属病院における精神科外来および病棟において、一般患者における診療に従事するとともに、児童思春期専門外来を担当し、県内における児童思春期の専門的治療を行う。		0.40	琉球大学医学部附属病院における精神科外来および病棟において、一般患者における診療に従事するとともに、児童思春期専門外来を担当し、県内における児童思春期の専門的治療を行った。またリエゾンチームの立ち上げを行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		甲田 宗良	所 属		医学研究科 精神病態医学講座
職 名				助教	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医、医学部学生に対する心理カウンセリング、心理検査等の講義、教育を担当する。 ・教育学研究科臨床心理学専攻の実習生に対する心理カウンセリング等の指導を行う。 ・病棟看護師等、コメディカルに対する精神療法、面接技法の指導・助言を行う。 ・医学科3年次『医学研究』の研究指導を行う。 ・研修医、医学部学生および心理実習生に対する進路指導・助言を行う。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・研修医、医学部学生に対する心理療法(M2およびM3の系統講義、治療学系)、心理検査の講義、教育を担当した。OSCE模擬患者、標準患者を担当した。 ・講座内および病棟内の勉強会・事例検討会を企画・運営した。 ・M5総合講義にて、「自殺の現状と予防」の講義(1コマ)を担当した。 ・教育学研究科臨床心理学専攻の実習生に対する心理カウンセリング等の指導を行った。 ・保健学科の「臨床心理学(認知行動療法、被害者支援)」の講義(2コマ)を担当した。 ・「M3医学研究」を担当し、論文抄読、データ解析の指導を行った。
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度科学研究費(若手B)に代表者として採択されており、科研費研究プロジェクトの計画・実施を進める。 ・複数の民間研究財団等の助成金申請を計画している。 ・平成29年度中に英文誌に筆頭1本投稿・受理、共著1本投稿・受理、国内誌に筆頭1本投稿・受理、共著1本投稿・受理を目指す。 ・平成29年度中に学会発表を4回行う。 ・講座内の研究計画立案、統計解析、プレゼンテーションスキル向上のための研修を行う。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度科学研究費(若手B)に採択され、1年目の研究課題に取り組んだ(調査研究の準備、文献研究)。 ・国内の研究財団の助成金申請を1件行った。 ・平成29年度中に、第1著者の英文1本を執筆し、まもなく投稿予定である。第1著者の和文1本を執筆し、投稿中である。第2著者の英文2本が採択された(Current Psychology, BMC Health Services Research)。第2著者の英文2本の研究デザイン立案・解析を担当し、英文誌へ投稿中である。第3著者の和文1本が採択された(パーソナリティ研究)。第3著者の和文1本の研究デザイン立案・執筆補助を担当し、投稿中である。 ・平成29年度中に学会発表1回(筆頭:九州精神神経学会)、シンポジウムの司会・指定討論1回(日本心理学会)、シンポジウムの企画・話題提供1回(日本認知・行動療法学会)を行った。 ・講座内の2件の臨床研究において、心理検査の施行、データ入力、解析を担当した。 ・その他、講座内の大学院生の学位論文の研究指導、統計解析指導を担当した。
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民および医療・心理専門職に対する心理カウンセリングおよび精神疾患に関する啓発活動を行う。 ・企業、行政機関を対象にメンタルヘルス相談活動・研修を延べ20件行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は、平成30年1月20日(土)時点において、22件の講演・研修(メンタルヘルス、自殺予防対策)を行った(行政機関、保健所、警察、学校)。今後、平成29年3月31日(火)までにさらに7件を担当する予定である。 ・国立精神・神経医療研究センターの依頼で、PFA(サイコロジカル・ファーストエイド)研修講師を担当した(島根県)。 ・琉大ラジオ番組「ぎのわんシティFM 第60回メンタルヘルス:マインドフルネスについて」を担当した。
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・所属診療科において、外来および病棟の管理運営の補助を行う。 ・所属診療科における研究活動支援の管理運営を行う。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・所属診療科において、外来および病棟の管理運営の補助を行った。 ・所属診療科内の定例の勉強会において、管理運営を行った。 ・センター試験の監督(1日目)を担当した。
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科外来および病棟において、診療補助(心理カウンセリング、心理検査、心理教育や家族教室、集団精神療法の運営)を行う。 ・平成29年度は延べ500名に対して支援を行うことを目指す。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科外来および病棟において、診療補助(心理療法、心理検査、心理教育、集団精神療法の運営)を担当した。 ・平成29年度は、平成30年1月20日(土)時点において、延べ523名に対して支援を行った。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	國吉 幸男		所 属	胸部心臓血管外科学講座		職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	1) 学部学生への講義(M1からM4まで);医学概論(M1)、医科学研究(M2)、循環器外科に関する講義。大学院生への講義;人工臓器、循環関連の講義等。修士、博士課程学生への研究指導 3) 臨床実習(M5,6)学生へのベッドサイドの教育(術前・術後管理、手術の実際、提出レポートに基づく口頭試問の実施・評価)。 4) 指導学生との懇談会、学習指導			0.25	左記示す項目について、ほぼ計画通り実施した。		
研究	0.25	1) MEP(運動誘発電位)と対麻痺予防に関する研究・実験的研究 2) Budd-Chiari syndrome研究、胸部大動脈瘤研究の推進 3) 学術学会の理事・評議員として運営への参加 4) 国内外学術雑誌への投稿論文の査読への参加			0.20	左記示す項目について、ほぼ計画通り実施した。		
社会 貢献	0.10	1) 地域医療への貢献 2) 先進医療の導入、発展 3) 医療に関する学術講演会の開催			0.20	左記示す項目について、ほぼ計画通り実施した。		
管理 運営	0.10	第二外科科長、大学院講座長としての管理運営			0.10	左記示す項目について、ほぼ計画通り実施した。		
診療	0.30	1) 先進医療を医療安全の下で推進する。 2) TAVI(TAVR)、植え込み型補人工心臓植え込み術の実施			0.25	左記示す項目について、ほぼ計画通り実施した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 聡	所 属		胸部心臓血管外科学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	医学部3年次の指導教官として進路指導を行う。医学部3年次及び4年次の臨床講義(系統講義)に加え、5、6年次の臨床実習教育を行い、心臓外科疾患の診断及び治療の基本を理解してもらう。年度末には試験担当し、評価を行う。初期臨床研修医・後期臨床研修医に対する臨床教育を行う。特に後期臨床研修医に対する教育は、一般外科のみならず胸部外科(呼吸器外科・心臓外科)の教育を行う。			0.15	医学部学生臨床講義及び臨床実習において心臓外科疾患の基本を理解させられた。年度末試験においてはその理解度を確認し得た。研修医に対する臨床教育において心臓外科手術手技及び術後管理について教育することができた。また、研修医に県医師会での症例報告を行わせることができた。臨床指導をとおして、学生へ対応することができた。研修医への対応、指導ができた。懇談会等をとおして、学生へ対応することができた。		
研究	0.20	基礎研究(心筋虚血・再灌流障害)の継続。臨床研究として開心術中の肺虚血・再灌流障害についての薬物効果解明に新たに取り組む。研究成果について論文発表・学会発表を行う。また、臨床論文の筆頭著者論文を執筆する。			0.20	臨床研究としてのMICS術後の肺水腫予防についての構想をすすめている。肺水腫予防について国内外学会で発表し、さらに論文発表し得た。		
社会 貢献	0.15	臨床経験・治療成果(手術成績等)を学会発表、論文発表し、その情報を公開する。また、近隣病院での手術要請時に迅速に対応することで地域に貢献する。			0.15	大動脈疾患の手術成績の発表。当科で経験した希な疾患について学会や論文発表が行えた。近隣施設で緊急手術要請に対しては迅速に対応できた。		
管理 運営	0.15	諸委員会への出席及び病院管理にての決定事項に対する当該医局での徹底の管理。病棟及びICU入退院の円滑管理。			0.15	諸委員会への出席及び病院管理にての決定事項に対する当該医局での徹底の管理及び病棟及びICU入退院の円滑管理ができた。		
診療	0.35	心臓血管外科疾患の診断ならびに手術治療を行う。月・水・木の定期開心術に加え緊急手術の迅速な対応を行う。周術期管理、退院後の定期外来管理を担う。			0.35	手術治療並びに診断を充実できた。特に緊急手術は迅速な対応で良好な結果を得られた。又、低侵襲手術への取り組みが行えた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	前田 達也		所 属	胸部心臓血管外科学講座		職 名	助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	大動脈瘤疾患に対するアプローチ方法(診断、治療、フォローアップ)について医学部学生および臨床研修医に十分に周知できるように、外来見学、ベッドサイドレクチャー、手術見学などを積極的に行っていく。		0.20	医学部学生(臨床実習生)に対して、受け持ち患者を1例ずつあたえ、その疾患についての理解を深めるとともに、その周術期管理およびフォロー方法について学習してもらった。また、文献検索方法や疾患についてのレポート指導を行った。			
研究	0.20	胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術に関して、学会での報告発表を行う。 また、筆頭著者論文を執筆する。		0.20	解離性大動脈瘤に対するステントグラフト治療や、術後エンドリークの検討を行い、学会発表を行った。			
社会 貢献	0.20	沖縄県内において、大動脈瘤疾患に対するステントグラフト治療の周知および普及に努める。また、重症大動脈弁狭窄症の患者に対する経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)の周知および普及に努める。		0.20	地域への講演などを通して大動脈瘤疾患に対する、ステントグラフト治療の周知に努めた。また、関連病院におけるステントグラフト治療にも協力できる体制を作っている。TAVIに関してもハートチームを作成し、院内の検討会および、施設見学を行い、導入に向けて進めている。			
管理 運営	0.20	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)のため、ハートチームの一員として、運営管理に携わる。		0.20	ハイブリッド手術室の導入および、その有効利用について検討および周知に携わった。入および、その有効利用について検討および周知に携わった。			
診療	0.20	大動脈瘤疾患に対する診断ならびに手術治療を行う。定期手術に加えて、緊急手術にも対応できるような態勢を整える。 また、退院後の定期外来管理を行う。		0.20	臨床を通じて緊急でも対応できる診断、治療、フォローアップに努めた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		垣花学	所 属		医学研究科麻酔科学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	医学部でのM1に対する医学概論、M4に対する系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。初期研修医に対しては、初期臨床研修必須項目を実施できるように指導する。		0.20	医学部の系統講義ならびに試験を行いその評価を行った。病院臨床実習では、見学型ならびに診療型の臨床実習を行い、学生と共に診療方針などを決定し知識の系統化に貢献できた。10名ほどの初期臨床研修医に対し臨床研修必須項目を実施させた。		
研究	0.20	「ガス分子群を用いた革新的治療法の開発を目指した橋渡し研究」(概算要求)において、硫化水素ガスによる細胞保護効果について実験研究を行う。また、愛知医科大学解剖学教室、琉球大学医学部皮膚科学講座との共同研究(硫化水素ガスと褥瘡治療)を行う。		0.10	「ガス分子群を用いた革新的治療法の開発を目指した橋渡し研究」(概算要求)の中で、生化学講座ならびに皮膚科学講座との共同研究を進め、科学的結果を見出した。さらにその成果の特許申請を行った。		
社会 貢献	0.15	北部地区病院の巡回診療を行い、地域の医療に貢献する。また、研究活動を学会および論文として公表し、その成果を臨床に応用できる体制を整える。		0.10	沖縄県内の病院において麻酔指導を行い、地域医療のレベルアップに貢献した。研究活動を学会および論文として公表した。		
管理 運営	0.30	総合臨床研修・教育センターの長として初期研修医の教育体制を管理運営する。沖縄県地域医療センターの委員として地域医療センターの運営方針構築に努める。附属病院副院長として診療・運営に関わる。複数の委員会に参画し業務を遂行する。		0.30	医学教育分野別認証の領域8のリーダーとしてその業務にあたった。総合臨床研修センター(旧 医師キャリア支援センター)長として初期臨床研修の教育体制を管理運営し、さらにFDとして指導医養成セミナー(2日間)を開催した。附属病院副院長として診療・運営に関わり、執行部に貢献した。		
診療	0.15	麻酔科長として11室増室後の手術部の効率を上げかつ安全性の向上に努める。複雑な症例の麻酔管理を行う。集中治療部長として、集中治療部メンバーと共に重症患者の診療にあたる。		0.30	平成29年度の麻酔科管理手術件数は、前年度より200件以上増加しており、麻酔科として手術部の効率と安全性の向上に貢献できた。集中治療部においても左心補助装着患者をはじめ重症患者の診療に貢献した。		
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中村 清哉	所 属		医学部 医学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	医学部学生の講義に際して、学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック外来の実習監督を行い、指導する。教官として学生、研修医の進路指導に関わる。			0.20	医学部学生の講義に際して、学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック外来の実習監督を行い、指導する。教官として学生、研修医の進路指導に関わる。		
研究	0.10	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行う。症例報告、原著論文を作成する。			0.10	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行う。症例報告、原著論文を作成する。		
社会 貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。			0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。		
管理 運営	0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力する。			0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力する。		
診療	0.50	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。ペインクリニック外来にて患者を診療し治療する。			0.50	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。ペインクリニック外来にて患者を診療し治療する。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		神里興太		所 属		医学研究科麻酔科学講座		職 名		助教	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.15	学生、研修医、看護師、臨床工学技士に対し、周術期患者管理に関する知識や技術に関する教育を行う。特に人工呼吸器、持続血液ろ過透析装置、膜型人工肺等の急性期患者管理に必要な医療機器のしくみや取り扱いに関して講義のみならず実際の機器を用いた参加型の教育を行う。また、学部生あるいは大学院生への教育(基礎研究)をおこなう。				0.15	学生、研修医、看護師、臨床工学技士に対し、周術期患者管理に関する知識や技術に関する教育を行う。特に人工呼吸器、持続血液ろ過透析装置、膜型人工肺等の急性期患者管理に必要な医療機器のしくみや取り扱いに関して講義のみならず実際の機器を用いた教育を行った。学部生(当大学および他大学部生)あるいは大学院生への教育(基礎研究および発表技法)をおこなった。				
研究	0.20	集中治療室において多臓器不全に対するアフレーシス療法などの最適化に向けた臨床研究を行う。また、基盤研究(若手B)で獲得した脊髄障害モデルを用いた研究を行い、基礎研究を推進する				0.20	集中治療室において多臓器不全に対するアフレーシス療法などの最適化に向けた検討を行い、論文(総説)を執筆した。また、基盤研究(若手B)で獲得した脊髄障害モデルを用いた研究を行い、基礎研究を推進した。				
社会貢献	0.15	県下の医療機関への派遣によって、安全な術中管理に貢献する。大学内での診療経験や研究から得られた知見を内外の医療従事者に講演する。				0.15	県下の医療機関への派遣によって、安全な術中管理に貢献した。大学内での診療経験や研究から得られた知見を内外の医療従事者に講演した。とくに集中治療領域に関する講演を行った(講演2回:栃木県および大分県)。				
管理運営	0.15	大学および大学病院における委員会の活動に貢献する。				0.10	大学および大学病院における委員会の活動に参加した。				
診療	0.35	術前あるいは術後管理を含む手術麻酔管理、特に集中治療管理を要する様な重症症例の周術期管理に従事し、安全な医療を提供する。集中治療室において人工呼吸療法やアフレーシス療法を用いた先進的かつ高度な専門治療を行い疾患治癒に貢献する。				0.40	術前あるいは術後管理を含む手術麻酔管理、特に集中治療管理を要する様な重症症例の周術期管理に従事した。集中治療室において特殊な人工呼吸療法やアフレーシス療法を用いた先進的かつ高度な専門治療を行った。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金谷 文則	所 属		大学院医学研究科整形外科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	臨床講義「case presentation」では学生に主体性を持たせ発表させている。ポリクリ学生に対しては小グループ指導・実習を行っている。クリニカル・クラークシップではPBLを取り入れ実践的な指導を行っている。後期研修医に対するマイクロサージャリーの教育・指導、県内・外病院における手術指導、教育的診察・回診を行っている。			0.30	達成できた。		
研究	0.25	標準整形外科・新潟手の外科セミナー・手外科診療ハンドブックの改訂、「先天性橈尺骨癒合症の分類」の執筆、大学院生の指導を行っている。			0.25	目標に加えて、AO法骨折治療「Hand」の翻訳を監修した。		
社会 貢献	0.10	「ロコモの対策」、「関節リウマチ」および「慢性疼痛」についての市民公開講座を予定している。なお、「熱中症」は今年より医師会主催となり、当科は後援予定。沖縄県では初の日本整形外科学会基礎学術集会を11月に開催する。			0.10	「ロコモ対策」、「関節リウマチ」および「慢性疼痛」についての市民公開講座を。沖縄県では初の日本整形外科学会基礎学術集会を11月に開催した(参加者1734名)。4月まで国家試験問題作成委員を務めた。		
管理 運営	0.15	日本マイクロサージャリー学会理事長の他、日本整形外科学会・肘学会・末梢神経学会・運動器科学会の理事を務めている。日本リハビリテーション学会の評議員と沖縄県専門医プログラム責任者を務めている。			0.15	日本マイクロサージャリー学会理事長の他、日本肘学会・末梢神経学会・運動器科学会の理事を務めた。日本整形外科学会および日本リハビリテーション学会の評議員と沖縄県専門医プログラム責任者を務めた。		
地域 医療	0.20	拠点病院における研修体制の確立、県内における離島医療の充実のための人員配置と研修体制の確立および地域医療の充実を図る。			0.20	達成できた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		普天間 朝上	所 属		医学部 整形外科学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	医学生に対する手の外科領域の講義、臨床研修時の指導。医学部卒業予定者、初期研修医に対する定期的な進路説明。研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導			0.20	医学生に対する手の外科領域の講義、臨床研修時の指導。医学部卒業予定者、初期研修医に対する定期的な進路説明。研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導を行った		
研究	0.30	横小切開による橈骨遠位端骨折接合術。腕神経叢損傷に対する神経移行および神経移植術を用いた肩肘機能の再建。手関節尺側部痛。			0.30	横小切開による橈骨遠位端骨折接合術(口演と論文)。腕神経叢損傷に対する神経移行および神経移植術を用いた肩肘機能の再建。手関節尺側部痛の論文投稿。RA肘に対する人工肘関節の適応と限界の発表		
社会貢献	0.10	スポーツ大会への帯同・医師派遣。学外の審査会、学会の委員会の参画。地域医療への貢献。			0.10	スポーツ大会への帯同・医師派遣。学外の審査会、学会の委員会の参画。地域医療への貢献。		
管理運営	0.10	DPC委員会、診療報酬委員会。入試試験監督。			0.10	DPC委員会、診療報酬委員会。入試試験監督		
診療	0.30	整形外科外来、病棟、手術			0.30	整形外科外来、病棟、手術		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		斎藤誠一	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	わかりやすい講義を心がける。医師になってからでは学ぶ機会がほとんどなく、知らないが故に手遅れになる大切な疾患を教えることで、医師としての真剣勝負は学生講義のうちにすでに始まっていることを伝える。ポリクリでは1例1例のポイントを教える中で、すべての患者に共通する考え方を伝える。		0.20	ポリクリを中心に学生を指導した。カンファレンス等で若手医師を指導することで学生を教え、講義でもできるだけ噛み砕いた講義を心がけた。	
研究	0.20	泌尿器系癌における新しい腫瘍マーカーの研究を引き続き行うとともに、創薬につながる治療研究の基礎固めを行う。		0.20	泌尿器系癌の研究では、学外との共同研究で去勢抵抗性前立腺癌に関する新たな知見が得られた。現在、論文作成中である。また、すでにいくつかの分子については前立腺癌の悪性度を反映することを見出し、論文作成に向けて準備中である。	
社会 貢献	0.10	骨盤臓器脱など、治療法があるのに知らずに悩んでいる患者さんに向けて、また前立腺癌の早期癌の発見法を知らずにいる患者さんに対しても、市民公開講座をできるだけ開催する。		0.10	市民公開講座を那覇市、宮古島市、西原町(2回)、名護市、糸満市で行い、談話会形式も那覇市内で行った。	
管理 運営	0.10	これまでにしてきたと同じく、委員会では建設的な提言を積極的に行いたい。		0.10	委員会の委員長として、改善を目指した発言を行った。委員としては、できるだけ本質的な発言を心がけた。	
臨床	0.40	カンファレンス・病棟回診を通して患者治療の適切な方向づけを行う。若手に腹腔鏡手術を含めた手術全般の指導を行う。ダビンチ手術に積極的に関与し、安全・確実で高いQOLをもたらすような手術を心がける。		0.40	主に、ダビンチ手術の安全な立ち上げに積極的に関与した。若手医師の腹腔鏡指導も行った。症例カンファレンス、回診にて要点をついた指導を行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮里 実	所 属		琉球大学大学院医学研究科腎泌尿器外科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	泌尿器科の魅力が伝えられる分かりやすい学生講義を心がける。国家試験対策にも力を入れたい。外科医志望者が増えるようにシュミレーションセンター等の実践を取り入れた学生指導を充実させる。			0.20	腎・泌尿器科科系統講義では、動画を取り入れた、分かりやすい講義が実践できた。ポリクリ学生には、医師になった際最低限必要な泌尿器科的知識を伝えることができた。クリクラ学生には、国家試験に準じた講義と対策ができた。		
研究	0.30	競争的資金獲得に向けて基礎実験に力を入れる。多施設共同研究を立ち上げ、臨床の新たなエビデンスの構築を目指す。大学院生の学位論文の指導を行う。			0.30	大学院生に競争的資金の指導を行い、科研費若手(B)を獲得させた。4つの英文原著が採択され、そのうち一つは大学院生の指導でcorrespondenceとして採択された。		
社会 貢献	0.10	高齢化社会における泌尿器科的問題と対策(癌、排尿障害、婦人泌尿器科、性機能障害)を市民公開講座を通して啓発活動を行う。			0.10	那覇市と宮古の公開講座で夜間頻尿の診断と治療について講演した。		
管理 運営	0.00				0.00			
診療	0.40	多くの患者の診療を通して地域医療に貢献する。			0.40	癌、小児、尿路結石、排尿障害、性機能障害といった多くの泌尿器科患者の診療にあたった。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲西 昌太郎	所 属		医学部腎泌尿器外科学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	大学助教として、学生のプレゼン指導、レポート指導、実習指導を積極的に実施していく。		0.10	大学助教として、学生のプレゼン指導、レポート指導、実習指導を積極的に実施した。			
研究	0.40	大学院最終年次として、論文作成、実験にこれまで以上に積極的に取り組んでいく。また、論文を作成し大学院卒業も目指す。		0.40	大学院最終年次として、論文作成、実験にこれまで以上に積極的に取り組んでいった。また、論文を作成し大学院卒業も目指す。(現在作成中)。			
社会 貢献	0.00			0.00				
管理 運営	0.00			0.00				
診療	0.50	外来診療、病棟管理、手術など泌尿器科臨床に従事する。		0.50	外来診療、病棟管理、手術など泌尿器科臨床に従事した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	新崎 章		所 属	医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座	
職 名			教授		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	M2学生に対する発生学(頭頸部の形成過程と異常の発生機序)講義、M3学生に対する歯科口腔外科学の系統講義および救急医療系(歯科口腔外科救急)講義、M3・4学士入学生に対する「熱帯医学・国際保健医療学」講義、大学院学生に対するe-Learning(健康長寿医学概論、再生・再建医学概論)を最新の情報を踏まえて講義する。学生生活委員長として医学部学生のサポートと同時にメンタル・ケアも支援する。	0.20	M2学生に対する発生学(頭頸部の形成過程と異常の発生機序)講義、M3学生に対する歯科口腔外科学の系統講義および救急医療系(歯科口腔外科救急)講義、M3・4学士入学生に対する「熱帯医学・国際保健医療学」講義、大学院学生に対するe-Learning(健康長寿医学概論、再生・再建医学概論)を最新の情報を踏まえて講義した。学生生活委員長として医学部学生のサポートと同時にメンタル・ケアも支援した。	
研究	0.25	4年次大学院生の研究(上皮迷入の関する研究・再生医療に関する研究)を指導し学位取得に繋げる。1・2年次大学院生の研究指導を行う。助教およびリサーチ担当助教の研究指導と論文作成をサポートする。	0.25	大学院生(4年次)の学位論文を指導し学位授与に至った。他、教室員の執筆した英論文5編(原著論文2編、ケースレポート3編)を責任著者として指導し、論文受理に至った。大学院生(1年次)の英文の症例報告論文を指導し、現在、revise中である。	
社会貢献	0.15	在沖縄ラオス国名誉領事としてラオスと沖縄の交流に貢献する。ラオスおよびエチオピアでの海外医療援助(口唇口蓋裂患者の無料手術)活動を行い交際貢献に努める。	0.15	在沖縄ラオス人民民主共和国名誉領事に就任した。ラオスとエチオピアで海外医療援助活動(口唇口蓋裂患者に対する無料手術)を行い海外医療による国際貢献をした。	
管理運営	0.15	※医学部組織整備検討委員長、学生生活委員長、医学部学生指導主任、医学部分館運営委員、病院長補佐、広報委員長、クリニカルシミュレーション副センター長、地域医療部長、沖縄県地域医療支援センター運営委員、戦略的経営企画委員、医療安全管理対策委員、リスクマネージャー会議委員、分析担当者会議委員、国際交流委員、国際協力専門委員長、西日本医科学生体育連盟理事、沖縄県がん診療連携協議委員として各委員会の運営に携わる。	0.15	※医学部組織整備検討委員会委員長、学生生活委員長、医学部学生指導主任、医学部分館運営委員、病院長補佐、広報委員長、クリニカルシミュレーション副センター長、地域医療部長、沖縄県地域医療支援センター運営委員、戦略的経営企画委員、医療安全管理対策委員、リスクマネージャー会議委員、分析担当者会議委員、国際交流委員、国際協力専門委員長、西日本医科学生体育連盟理事、沖縄県がん診療連携協議委員として各委員会の運営に携わった。	
診療	0.25	①EBMとNBMの両方に基づいた良質の高度医療を提供する。②口腔癌患者に対して標準治療に基づいた個別化治療を行う。③口腔ケアセンターを活性化し、がん患者の医科歯科連携の確立によるQOLの向上を図る。④口唇口蓋裂センターの充実を図る。地域医療部長として外来化学療法室の強化と在宅医療支援センターの活性化を図り、病院経営に貢献する。	0.25	①EBMとNBMの両方に基づいた良質の高度医療を提供した。②口腔癌患者に対して標準治療に基づいた個別化治療を行った。③口腔ケアセンターを活性化し、がん患者の医科歯科連携の確立によるQOLの向上を図った。④口唇口蓋裂センターの充実を図った。地域医療部長として外来化学療法室の強化と在宅医療支援センターの活性化を図り、病院経営に貢献した。	
計	1.00		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	西原 一秀		所 属	医学部 医学科	
職 名	准教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 顎顔面口腔機能再建学講座医局員の臨床・研究ならびに教育に対する指導(口腔外科専門医、指導医の獲得、口腔科学会認定の獲得) 歯科口腔外科の大学院生の研究指導 歯科医師臨床研修医の臨床ならびに研究の指導 医学部学生の歯科・口腔外科学の講義ならびに臨床教育の実施 医学部生指導教官として学生の支援 	0.25	(達成できている) ・口腔外科学会指導医として医局員が口腔外科専門医を2名、指導医を1名が獲得し、私は口腔科学会認定を獲得した ・歯科医師臨床研修医には診察、研究指導を適切に行い、海外医療援助活動2名など有意義な研修を行わせることができた。 ・医学部学生では講義を担当し、ポリクリでは最終総括を行った。学部4年生の指導教官として学生とコミュニケーションを取りながら担当学生の指導を行っている。	
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 国際・国内学会誌の投稿および国際・国内学会・各専門学会の発表 口唇口蓋裂グループの臨床的研究の充実とチーム内の研究のマネジメント 顎骨再建・口腔機能再建に対する基礎的・臨床的研究の推進 沖縄県歯科医師会共同事業「おきなわ口腔情報基盤ネットワークの開発」における総務省「地域ICT振興型研究開発」の申請 口腔外科学会「国際協力援助活動費」の申請 九地連公募研究事業「沖縄県におけるHIV感染症歯科診療ネットワーク体制構築に向けた実態調査」の実施 科学研究費基盤研究(一般C)、(海外B)の申請 口蓋裂学会・治療ガイドラインの作成 	0.25	(達成できている) 今年度はIFの有する英論文4編(共著)、IFのない英論文2編(筆頭、共著)、日本語論文1編(共著)を報告した。 専門分野の口唇口蓋裂では招待講演として2編発表し、口腔ケアの講演を1編おこなった。国内学会、国際学会で多数の発表を行った。 ・科研費の獲得ができなかったが、分担者としての科研費と口腔外科学会から海外活動費を得た。 ・九地連公募研究を獲得し、県歯科医師会と共同作業で行い、中間報告書を提出した。 ・学会活動では口蓋裂学会でガイドライン作成委員として携わり、来年度のインプラント学会支部会の実行委員長として活動を始めた。	
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> 口唇口蓋裂患者の国際医療援助活動(ラオス・エチオピア)の継続 沖縄県口唇口蓋裂を考える会の定期的開催の継続 沖縄県のHIV関連の歯科診療連携の体制作り推進 沖縄県口腔ケア研究会の参加 	0.15	(達成できている) ・12月ラオス、2月エチオピアで口唇口蓋裂医療援助活動を行った。また、口唇口蓋裂親の会の開催も計画し、3月に行う予定である。 ・4月に日本口腔ケア学会総会を実行委員長として開催し、好評であった。 ・H I V患者の治療を行う関連歯科病院の連携について歯科医師会で講演を行い連携を図っている。 ・「がん診療連携拠点病院等の患者に対する歯科保健医療推進事業」について県と共同事業で研究会、講演会などを開催して、口腔ケアの啓発に取り組んだ。	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物処置委員会、経営改善委員会などの病院内各委員会の参加 感染対策委員会の参加 歯科口腔外科病棟医長として病棟を管理運営し、医療事故0件を目指す 「がん診療連携拠点病院等の患者に対する歯科保健医療推進事業」の実施 	0.10	(達成できている) ・廃棄物処置委員会、経営改善委員会などの病院内各委員会の参加した。 ・歯科口腔外科病棟医長として病棟を管理運営し、医療事故は0件であった ・「がん診療連携拠点病院等の患者に対する歯科保健医療推進事業」では、研究会、講演会などを実施し、好評であった。	
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> 歯科口腔外科手術患者数の増加および診療報酬増加 口唇口蓋裂センターの診療体制の充実と患者増 病院内周術期の口腔ケアの診療体制の確立と患者増 歯科用インプラント治療の診療体制の確立と患者増 	0.25	(大凡達成できている) ・口唇口蓋裂センターの診療体制の充実を図り、往診数、患者は増加している。 ・病院内周術期の口腔ケアの診療体制の確立によって患者数は増加した。 ・歯科用インプラント治療の診療体制の確立を目指した活動が今後の課題である。	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜名 振一郎	所 属		顎顔面口腔機能再建学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	大学院生が共著となれるような指導実績をつくる		0.00	大学院生が共著となるような論文を作成できなかった			
研究	0.70	筆頭筆者の論文を受理される		0.20	筆頭筆者の論文は、二報が現在査読中である			
社会 貢献	0.10	市民公開講座等に積極的に参加する		0.10	口腔ケア学会の開催にスタッフとして参加した			
管理 運営	0.10	学内委員会への積極的な出席		0.10	センター試験の監督を行った			
計	1.00			0.40				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仁村文和	所 属		医学部医学科歯科口腔外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	医学部学生に対して口腔外科領域を知ってもらうための講義、特に周術期の口腔機能管理の意味について理解を深めてもらうように講義する。研修医に関して、診療や学会を通じて口腔外科に必要な知識の確認を行ってもらう。		0.10	医学部学生に対して口腔外科領域を知ってもらうための講義、特に口腔機能の意味について理解を深めてもらうように講義した。研修医に関して、診療や学会の発表を通して口腔外科の必要な知識の取得を行ってもらった。			
研究	0.20	超音波を用いた口腔癌の頸部リンパ節転移についての研究。また、口腔ケアおよび摂食・嚥下機能評価について研究を行う。		0.20	口腔癌について学会発表(日本口腔外科学会で発表)を行った。また口腔癌の症例について論文作成を行った。			
社会貢献	0.20	大学病院として取り扱う口腔外科領域の疾患、治療の知識を研究会等での講演、発表をすることで貢献する。		0.30	大学病院で行っている高度医療について学会で発表、口腔外科の指導医習得することで沖縄県の口腔外科治療に貢献した。			
管理運営	0.10	リスクマネジメント委員として安全管理に携わる		0.10	リスクマネジメント委員として診療の安全管理に取り込んだ。			
診療	0.20	口腔外科疾患の治療、特に口腔癌の治療を中心に診療を行った。また術前の口腔ケア、および摂食嚥下障害の治療を行った。		0.30	特に口腔癌治療、摂食嚥下障害の評価およびリハビリを行った。また日本がん治療認定医の取得し、日本口腔外科学会の指導医を習得のため試験を受けた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		久木田 一郎	所 属		医学部 医学科
職 名				教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.10	救急医療講義、倫理討論、医療学総論、公衆衛生チュータ、保健学科講義、医科学研究等で救急災害医療・医療倫理について教育する。臨床実習でER型救急部で参加型臨床実習を行い知識・診療技術・態度を養う。大学院生博士、修士へ救急・災害演習を行う。初期臨床研修医へのon the jobで教育を行う。ERへ出向する各科医師へ専門分野を超える救急の現場を共有する。4年次学生指導教官として学生指導。		0.10	救急医療講義、倫理討論、医療学総論、公衆衛生チュータ、保健学科講義、医科学研究等で救急災害医療・医療倫理について教育した。臨床実習でER型救急部で参加型臨床実習を行い知識・診療技術・態度を教えた。大学院生博士、修士へ救急・災害演習を行った。初期臨床研修医へのon the jobで教育を行った。ERへ出向した医師と救急診療を通じてその特徴と院内連携の重要性を学んで頂いた。4年次学生指導教官として学生指導を行った。
研究	0.05	重症患者の救命治療に関する研究を進める。講座に属する大学院生(博士、修士)への研究指導を進める。災害医療に関し島嶼防災研究センター(併任)に資する研究を進める。		0.05	重症患者の救命治療に関する研究を進め、アメリカ心臓協会のPaul Dudley賞を獲得した。講座に属する大学院生(博士、修士)への研究指導を進め、修士は日本心臓リハビリテーション学会優秀賞を得た。災害医療に関し衛星使った実証研究を行った。
社会貢献	0.15	救急部拡充後の当院の救急・災害医療の受け入れ能力を高める。在沖米国海軍病院との連携を進める。病院前の救急医療体制の構築(県MC協議会)を消防機関と共に担う。災害医療に関する沖縄県や国、国際的な連携体制を構築するための活動を行う。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加するなど航空医療搬送システム構築へ貢献する。		0.15	救急災害医療棟の完成後の救急・災害医療の受け入れ能力を高め、救急加算1, 2の大幅増に貢献した。在沖米国海軍病院の災害シンポに演者として参加した。病院前の救急医療体制の構築(県MC協議会)の会長を勤めている。地域災害医療拠点の内示を得た。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加した。
管理運営	0.05	医療機器安全管理責任者、MEセンター長として、附属病院における臨床工学技士の教育・円滑な活動ができるよう体制を作り、医療機器に関する医療安全を向上させる。救急部運営協議会、診療委員会、病院運営委員会等に参加し、病院の救急災害診療体制構築を進める。		0.05	医療機器安全管理責任者、MEセンター長として、附属病院における臨床工学技士の教育・円滑な活動ができるよう体制を作り、医療機器に関する医療安全の向上に尽くした。救急部運営協議会、診療委員会、病院運営委員会等に参加し、病院の救急災害診療体制構築を進めた。
診療	0.65	救急患者の診療に従事し、救急部長として救急部専従スタッフの増員、出向医の安定確保、救急診療体制の維持向上に努める。附属病院移転構想にある高度救命救急センターの設置および厚生労働省の地域医療構想による急性期病院としての機能維持のため、救急患者受け入れの充実、受け入れ患者の重症度を高めることに努め、DPCの救急係数を上げ、救急からの入院を受け入れた各診療科の収入増に貢献する。		0.65	救急患者の診療に従事し、救急部長として救急部専従スタッフの増員、出向医の安定確保、救急診療体制の維持向上に努め、年度中に准教授、特命教授の採用が決まった。附属病院移転構想にある高度救命救急センターの設置および厚生労働省の地域医療構想による急性期病院としての機能維持のため、救急患者受け入れの充実、受け入れ患者の重症度を高めることに努め、DPCの救急係数を上げ、救急からの入院を受け入れた各診療科の収入増に貢献した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木 幹男	所 属		医学部 医学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	学生の系統講義, 倫理討論を担当する。ポリクリニック, クリニカルクラークシップで学生教育を行う。M2の指導教官として適切な介入指導を行う。学位指導を行い, 博士論文が完成するように指導する。			0.10	目標の講義、教育を行えた。M2学生も落伍なく進級予定である。学位指導を2名に行った。ポリクリ、クリクラの学生の指導を十分に行った。		
研究	0.20	科研費を用いて頭頸部癌の研究を行う。また他大学との共同研究を実施する。			0.25	科研費を取得し研究を実施している。大阪大学、九州大学、信州大学などの共同研究を実施している。		
社会 貢献	0.10	沖縄県地方部会長, 頭頸部外科学会理事、日本気管食道科学会理事など役職に応じた活動を行い, 公益に寄与する。			0.10	各学会長、理事を行った。さらに国際学会を主催しアジア太平洋地域から520名の参加者を集め公益に寄与した。		
管理 運営	0.10	副病院長として病院経営に尽力する。各種委員会委員, 委員長として大学, 医学部, 附属病院の各所で機能向上に寄与する。			0.25	副病院長、各種委員会長、手術部長、各種委員会委員として管理運営に寄与した。		
診療	0.40	診療科長として, 十分な診療実績があげられるようにする。			0.30	診療科長として、診療実績を挙げるとともに医療安全への配慮を十分におこなった。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		真栄田裕行	所 属		琉球大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	学部生に対する耳鼻咽喉科一般の系統講義 臨床実習生に対する診察・検査・手術手技等の実技指導 当科所属の専修医、専門医に対する臨床実技指導、 医局員に対する総合的指導			0.30	当初の左記目標はほぼ達成できた。		
研究	0.20	低酸素環境下における癌生物学的特質の変化に関する研究 頭蓋底疾患に対する手術手技の修練 外部資金の獲得 学会発表および学術誌への投稿			0.10	新規ラボデータはなかった。 学会発表は多数行った。 論文掲載は英文2編、日本語4編をが掲載された。		
社会 貢献	0.10	耳の日、鼻の日のイベント、あるいは市民講座等、一般を対象とした 講演や相談会			0.00	主だった活動はありません。		
管理 運営	0.30	電子カルテ委員としての活動 病院システム管理委員あるいは監査委員としての活動 当科主催学会の事務局員としての活動(宣伝、経理)			0.30	左記内容に加え、とか主催の国際学会(第2回アジア太平洋甲状腺外科学会)の運営に尽力した。		
診療	0.20	頭頸部癌患者に対する集学的治療 離島医療推進に関するプロジェクト			0.30	左記内容につきほぼ達成できた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山下 懐	所 属		医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.10	臨床実習生の要望などを積極的に聴取し、指導にあたる。			0.10	臨床実習の指導を行った。		
研究	0.30	症例報告や統計、基礎研究など学会での報告、論文発表を行う。			0.30	日耳鼻総会、鼻科学会、世界耳鼻咽喉科学会などで発表した。		
社会 貢献	0.05	耳の日、鼻の日講演会などへの参加につとめ、沖縄県民の耳鼻咽喉科領域疾患への関心を高める。			0.05	耳の日、鼻の日講演会へ参加した。		
管理 運営	0.05	入試関連業務などへの参加。			0.05	OSCEに参加した。		
診療	0.50	外来、手術など診療活動。			0.50	外来、手術などの診療活動に従事した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		又吉 宣	所 属		医学部付属病院 耳鼻咽喉科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	医学部医学科病院実習学生に対する教育、指導		0.20	医学部医学科病院実習学生に対する病棟、手術室等での臨床教育、指導			
研究	0.20	頭頸部扁平上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸経路に関する研究 (H27年度科研費研究助成)		0.20	頭頸部扁平上皮癌におけるリゾフォスファチジン酸経路に関する研究(H27 年度科研費研究助成)			
社会 貢献	0.05	大学病院内の各種委員会		0.05	病理部運営委員会、がん登録室連絡会議等大学病院内の委員会活動			
管理 運営	0.05	大学入試試験監督業務		0.05	大学入試センター試験監督業務(平成30年1月14日)、琉球大学入学者選抜 試験監督業務(平成30年2月25日予定)			
診療	0.50	病棟、外来、手術、当直等		0.50	病棟業務、外来、手術、当直業務等			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大屋祐輔		所 属	大学院医学研究科	
職 名			教授		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションセンターを利用するプログラムの開発と実施 ・指導医・指導者・教員の育成のための教育プログラムの実施 ・学生の国際交流への支援 ・WEB Classを用いた授業の促進 ・共用試験機構のOSCEの委員としての活動 ・病院長会議の教育プロジェクトチーム委員としての活動 ・PBLやTBLの実施の支援 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションセンターを活用した医学教育の実施において、十分な実施を行い、法人評価および国際認証において高い評価を得た。 ・ハワイ大学との学生交流について継続できた ・WEBクラスの使用を始めた ・共用試験OSCEでの問題作成や評価において全国レベルで貢献を行っている 国立大学病院長会議の教育PGの委員として課題のとりまとめを行った。 ・PBLやTBL実施のサポートを行った 	
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康づくりのためのシステムと人材育成の研究(外部資金獲得済み) ・離島における高齢者の見守りと血圧測定に関する研究(学部資金獲得済み) ・血管形態の自動計測システムの開発の研究(外部資金の準備中) 	0.20	地域の健康づくりのシステムとそのプログラムを作成した 離島高齢者の見守りと血圧管理について研究結果をまとめている 血管形態の自動計測装置および実画像のX線画像への変換システムを開発した	
社会 貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションセンターを利用した子どもたちに対する医学教育プログラムの実施 ・市民啓発のための医学講演会への関与 ・地域の健康づくり活動の実施 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーションセンターを利用した、小学生、高校生への医学教育プログラムを実施した ・市民啓発のための医学講演を行った ・沖縄県の長寿復活のための健康づくりについて行政への協力を行っている 	
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・副病院長としての病院運営への貢献 ・病院移転における指導的役割の実施 ・病院の安全管理担当者としての役割 ・シミュレーションセンターのセンター長としての管理の実施 ・保健管理センターのセンター長としての管理 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・副病院長としての病院運営への貢献した ・病院移転における指導的役割で計画を遂行中である ・病院の安全管理担当者としての活動した ・シミュレーションセンターのセンター長としての管理の実施している ・保健管理センターのセンター長としての管理を行った。また、全国集会を開催した。 	
臨床	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器領域の高度医療促進の支援と病院間ネットワークの促進 ・担当病棟稼働率の向上 ・在宅医療支援センターの活動の促進 ・在宅心臓リハビリの準備 	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器領域の高度医療基盤作りを行っている。また、県内の医療連携の仕組みを構築している。 ・担当病棟稼働率は高い状態で推移している ・在宅医療支援センターの活動が徐々に盛んになっている ・在宅心臓リハビリの事例が出てきている 	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		岩淵成志	所 属		循環器・腎臓・神経内科学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	①M5,M6の臨床実習、循環器分野の系統講義の充実 ②循環器グループスタッフへの冠動脈カテーテル治療に関する系統講義 ③循環器分野でのあらたな臨床研究への知識の共有 ④関連病院も含めた総合的な臨床実習の確立		0.30	①②は十分であったが、③はいまだ改善が必要。
研究	0.30	① JMA-IIA00267: ハイリスク症候性人工弁周囲逆流に対する経カテーテル逆流閉鎖術の安全性及び有効性を検討する医師主導治験の実施②沖縄県の慢性冠動脈疾患患者におけるクロピドグレルからプラスグレルへの変更後の血小板凝集能に関する検討 (Ryukyus Swith Study) の多枝説共同研究を完成させる。③模擬血管を用いたPCI教育システムの構築と実践。④AS registry研究継続。		0.30	①治験開始し、2症例施行済み、さらに1例同意取得済み。②は年に4回の模擬血管を使用したワークショップを開催。
社会 貢献	0.20	沖縄県で唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術の認定施設として重症大動脈弁狭窄症患者のTAVI治療の確立と臨床成績の公表		0.20	TAVIは41症例施行し良好な結果であり、TAVI治療は軌道にのり今後も患者数の増加が期待できる。県内外での研究会で発表あり。
管理 運営	0.10	①環器グループの病床運営、紹介率向上、逆紹介率向上 ②冠動脈カテーテル治療数の増加		0.10	①②ともさらなる努力改善が必要。
診療	0.10	①慢性肺動脈血栓塞栓症に対するバルーン治療の増加 ②冠動脈カテーテル治療数の増加 ③重症心不全の心移植症例の管理		0.10	①③は十分な症例数と良好な臨床成績であった。②はPCI200例達成したが、さらなる増加が望まれるため、関連施設へのはたらきかけをしている。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		宮城 剛志	所 属		大学院医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	<p>・高血圧、腎疾患領域を中心に学部学生講義、実習を通して実りある教育を行う。・学生からの評価について真摯に向き合い改善に努める。・学習もしくは学外での生活も含めて悩んでいる学生に積極的に介入し支援する。・学生時代に医師国家試験対策委員であった経験を活かし、国家試験対策に関する助言を行い合格率向上に寄与する。初期・後期研修医に対して病棟カンファレンス、回診を通して臨床教育を行う。</p>		0.15	<p>・学部学生に尿細管疾患について講義を行い、病棟実習学部学生に対し検尿実習を行うことで腎疾患の知識向上に貢献した。担当学部学生の臨床研究を指導した。病棟にて回診・カンファレンスを通して学部学生、初期・後期研修医指導を行った。</p>
研究	0.30	<p>・高血圧、腎疾患領域の学会にて研究発表を積極的に行い、研究の質を高める。・海外学会誌への投稿、発表を精力的に行い研究成果を公表する。・企業、財団補助金などに積極的に応募し外部資金獲得に努める。</p>		0.20	<p>・日本腎臓学会、日本透析学会、アメリカ腎臓学会にて腎疾患とリスクファクターの関連等について学会発表を行った。海外学会誌では共著者として発表を行った。企業補助金獲得を行った。</p>
社会貢献	0.05	<p>・日本医師会生涯教育講座対象の腎疾患を中心とした学術講演会を通して、地域医療の発展に貢献する。・産業医資格を有しているため、求めがあれば産業医としての業務を通して地域産業の発展に寄与する。</p>		0.10	<p>・常染色体優性多発嚢胞腎、ファブリー病の講演を通じて地域医療の発展に貢献した。難病支援のNPO法人の活動に参加し、難病医療を支えた。産業医の活動はなかった。</p>
管理運営	0.05	<p>・附属病院安全管理対策委員として担当部署のリスクマネジメントに努める。・大学入試センター試験監督または警備として大学入試運営の補助的役割を果たす。</p>		0.15	<p>病棟医長として病棟管理を行い、リスクマネージャーとして病棟の安全対策を行った。</p>
診療	0.30	<p>・高血圧、腎疾患を中心に外来診療を行い地域医療に貢献する。・病棟カンファレンスや回診を通して入院患者診療を担う。入院患者対象に腎臓病学習会を開催し、疾患の進展予防を目指す。・病棟日直または当直業務を行い、救急医療を支える。</p>		0.40	<p>・高血圧、腎疾患を中心に外来診療を行い地域医療に貢献した。・病棟カンファレンスや回診を通して入院患者診療を担った。入院患者対象に腎臓病学習会を開催し、疾患の進展予防を目指した。・病棟日直または当直業務を行い、救急医療を支えた。</p>
計	1.00			1.00	
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。</p>				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山里 正演	所 属		大学院医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	病棟実習において第3内科で学ぶべき基本症候をきめ、実習の際の目標をわかりやすくし、実習の充実をはかる。また、実習の新しい評価法としてのAdvanced OSCEとのつながりを意識し指導する。病棟実習生と初期研修医のカルテ記載と発表能力が向上するよう支援する。			0.25	病棟実習のガイダンスと胸痛のPBLを担当した。M3とM4に腎不全に関する講義を行った。		
研究	0.25	間葉系幹細胞とneurogenic hypertensionの関係及び肺高血圧治療につき検討を進め、科学研究費を獲得できるよう論文作成を進める。高血圧患者における尿中ナトリウム排泄及び尿中カリウム排泄より外来患者の食塩摂取量及びカリウム摂取量について検討を進める。			0.25	モノクローリン誘導肺障害モデルに間葉系幹細胞を経気道的に投与した実験の論文が受理された。間葉系幹細胞とneurogenic hypertensionの論文のreviseを進めている。中枢性機序による高血圧についての論文を書き直し投稿中。		
社会 貢献	0.10	入院患者への患者学習会を担当し、高血圧や腎疾患の知識の普及に努め生活習慣の修正や治療法への理解を促し、臓器障害の発症・進展予防を目指す。			0.10	病棟入院中の患者・家族を対象に高血圧学習会を継続して行った。特に塩分摂取を減らす方法・重要性について指導している。		
管理 運営	0.10	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行う。研究助成の申請補助を行う。			0.10	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行った。研究助成の申請や申請書作成補助をおこなった。		
診療	0.30	臓器合併症の発症・進展予防を目指し高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行う。朝夕の病棟回診をを通し、入院主治医への助言を行う。			0.30	高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行なった。週約30名の外来患者の診療を行なった。朝7時半と14時の病棟回診に参加し、必要な助言を行った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	當間 裕一郎		所 属	医学部 第三内科	
職 名	助教				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	① M3, M4講義(心筋症) ② M5, M6のベッドサイドでの問診・診察指導(循環器診察) ③ M5のシミュレーションによる心エコー実習指導 ④ 臨床研修医・医員の日常診療・基本手技(循環器領域)・カルテ記載指導 ⑤ 医学生・臨床研修医・医員の症例報告・臨床研究指導 ⑥ 医員の日本内科学会認定医取得支援・指導 ⑦ 医員の日本循環器学会専門医取得支援・指導		0.30	① M3, M4講義(心筋症)を行った。 ② M5, M6のベッドサイドでの問診・診察指導(循環器診察)を行った。 ③ M5のシミュレーションによる心エコー実習指導を行った ④ 臨床研修医・医員の日常診療・基本手技(循環器領域)・カルテ記載指導を行った ⑤ 医学生・臨床研修医・医員の症例報告・臨床研究指導を行った ⑥ 医員の日本内科学会認定医取得支援・指導を行った ⑦ 医員の日本循環器学会専門医取得支援・指導を行った
研究	0.20	① 脈波解析に関連したデータ収集・解析・公表 ② 症例報告, 研究報告などの論文作成, 投稿を行う ③ 多施設共同治験への参加		0.30	① 脈波解析に関して2017年5月:Pulse of Asiaにて研究発表を行った。 ② Case Reportを投稿・Accept: A case of aortic valve laceration after balloon aortic valvuloplasty with morphological features, Yuichiro Toma, MD Journal of Cardiology Cases, 2017; 6: 210-2 ③ ASレジストリ登録、RESEAL試験への登録、CHIMU Studyへの登録
社会 貢献	0.10	① TAVIなどの先進治療を県内研究会などで発表し, 知見を広めていく		0.00	① 今年では発表できておらず, 来期はさらに力を入れていく
管理 運営	0.10	① 感染対策実務者業務 ② 各種委員会(機器選定委員会など)の委員としての参加		0.10	① 定期的に参加 ② 超音波機器選定委員会、超音波センター運営委員会などに参加
診療	0.30	① 朝夕の病棟循環器グループ入院症例回診 ② 外来診療 ③ 夜間・土日祝祭日当直業務 ④ 心臓カテーテル検査・PCI, TAVIなどの手術治療(診療チームの一員として) ⑤ 循環器関連他科コンサルト対応 ⑥ CVIT(心血管カテーテル治療学会)専門医取得		0.30	①—⑤: 日中勤務、当直、オンコールなど対応 ⑥: CVIT専門医受験中。(結果は2018年8月)
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		白石 祐之	所 属		医学部 医学科 第一外科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	学生講義や各種試験問題を、最新の情報にて更新・施行していく。		0.20	講義内容を適宜更新し、最新情報の提供に努めた。			
研究	0.20	臨床研究データを解析し、学会発表などに生かしていく。		0.20	多施設との共同研究等にて学会発表・論文作成を施行した。			
社会 貢献	0.10	各種、県内外の医学系会議の主催や参加、他病院での手術支援を行う。		0.10	県内外の研究会にて、座長・発表者・講演者などとして活動した。			
管理 運営	0.10	院内の会議等で職責を果たす。		0.10	院内の会議に定期的に出席・発言した。			
診療	0.40	肝胆膵領域の高難度手術を中心に、術者および指導者として職責を果たす。		0.40	肝胆膵外科学会の高度技能医修練施設として、若手医師への肝胆膵手術、特に高難度手術の指導を行い、職責を果たした。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		下地 英明	所 属		琉球大学大学院 医学研究科 消化器・腫瘍外科学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.25	①医学部の学生に対して: 1) 担当講義を行い、医学知識の向上を図る。2) 医行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。②医学部学生および研修医に進路指導を行う。③日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NSTカリキュラムの作成、指導を行う。		0.25	① 1) 担当講義 1. 食道の外科的治療、2. 栄養法・NST、をおこなった。2) 1外科臨床実習に参加した学生に対して外科臨床実習を指導した。②医学部学生および研修医に進路指導を行った。③日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NST活動及び指導を行った。以上より、目標は達成できた。
研究	0.30	①消化器外科学領域、特に食道・胃外科領域での臨床研究成果を学会で発表する。②論文を作成し、発表する。③臨床研究成果を基に、科学研究補助金の申請を行い獲得を目指す。		0.30	①国内の学会・研究会で5件の発表と5件の座長を行った。国外の学会で2件の発表を行った。概ね目標は全て達成できた。
社会 貢献	0.05	①沖縄県内視鏡会に参加し、地域医療に貢献する。②所属学会・研究会の委員会に参加して、我が国の外科学の進歩に貢献する。		0.05	①沖縄県内視鏡会の定例会、理事会に参加した。②評議員・幹事等に任命されている所属学会・研究会のほとんどに参加し、一定の貢献を行った。以上より、目標は全て達成できた。
管理 運営	0.10	①担当の医学部附属病院委員会に参加し、運営に寄与する。②コアNSTの中心メンバーとして、病棟NSTの指導を行い栄養サポートチーム加算に協力し、運営に寄与する。		0.10	①任命された各種委員会に委員として出席し、運営に寄与した。②栄養サポートチーム加算の施設基準の担当医師として、栄養サポートチーム加算に協力し、加算可能ものとしている。以上より、目標は全て達成できた。
診療	0.30	医学部附属病院で、①消化器外科領域の食道・胃外科グループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当する。②内視鏡検査を担当する。③NSTのコアメンバーとして、NST活動を行う。①・②・③を通して、若手医師の指導と育成を行う。		0.30	①食道・胃外科のグループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当した。②内視鏡検査を担当した。③NSTのコアメンバーとして、毎週のNST症例検討、NST回診のほとんどに参加した。以上より目標の全てを達成した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		國仲 弘一	所 属		医学部 第一外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.05	研修医への講義・実技指導。医学部学生、大学院生への講義。病棟 実習生への指導・講義。		0.05	目標を達成できた。			
研究	0.10	乳がん、甲状腺疾患に関する研究。学会発表及び研究発表。		0.10	目標を達成できた。			
社会 貢献	0.05	地域での講演活動や研究会、患者会への出席。		0.05	目標を達成できた。			
管理 運営	0.05	病院運営に関する各種会議への参加。		0.05	目標を達成できた。			
診療	0.75	乳がん、甲状腺疾患の診療。		0.75	目標を達成できた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		青木 陽一	所 属		医学研究科 女性・生殖医学講座
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 当科診療マニュアル改訂による医局員教育の実施 産婦人科専攻医に対するセミナー講演 医学研究科大学院生9人の研究指導 研修病院選択への助言 医学博士号取得の勧奨 サブスペシャリティー専門医取得の勧奨 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 4年前、当科診療マニュアルを発刊し、医局員教育を実施し、3名が日本産科婦人科学会専門医を取得した。 講義、BSTに当分野の研究業績を盛り込んだ。 8回の定例研修セミナーを行った。 9名の大学院生に対する研究立案、研究指導を行った。 研修病院選択への助言を行った。 4名が新たに大学院へ進学する。 2名が日本生殖医学会の生殖医療専門医を取得した。
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 開発治験、臨床研究の遂行 子宮頸癌、子宮体癌、周産期に関する新研究の立ち上げ 積極的な論文執筆 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 現在、開発治験3件が進行中、臨床研究は多数件進行しており、今年、関連論文4本をpublishした。 子宮頸癌発癌の研究、早産研究、沖縄の早産低出生児に関する疫学研究について、人を対象とする医学系研究倫理審査委員会から承認を得た。
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> JGOG支持・緩和療法委員会委員長としての参画 各種学会での理事、評議員としての参画 沖縄産科婦人科学会での学会・研修会・市民公開講座の企画・開催 子宮がん検診勧奨のための公開講座等への参画 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 各種学会での理事会、評議員会への出席。 沖縄産科婦人科学会として、年2回の沖縄産科婦人科学会の開催と胎児心エコーセミナーの遠隔地開催の支援を行った。 9月25日、子宮がん検診啓発のための市民公開講座を開催した。 12月23日、若年妊娠に関する市民公開講座を開催した。 3月10日、更年期に関する市民公開講座を開催予定である。
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 診療情報システム担当病院長補佐としての貢献 病院臨床倫理審査委員会委員長としての貢献 輸血療法委員長としての貢献 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 医療情報・臨床倫理担当病院長補佐としての職務を遂行した。 病院システム運用委員会委員長、病院臨床倫理委員会委員長、医療情報管理センター長としての職務を遂行した。 輸血療法委員長としての職務を遂行した。 附属病院(治験倫理審査委員等)における各委員としての任務の遂行。
診療	0.30	<ul style="list-style-type: none"> 手術件数の増加、特に子宮体癌腹腔鏡下手術 子宮頸癌に対する広汎子宮頸部切断術(腔・子宮体部温存手術)の実施 外来・病棟診療体制の再構築 先進医療B子宮頸癌に対するロボット支援広汎子宮全摘施設認定への準備を行う。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> 前年同時期に比較し、手術件数・腹腔鏡下手術の件数の増加を得ている。 平成29年は広汎子宮頸部切断術を5例施行した。 子宮体癌の腹腔鏡下手術を22例実施した。 外来、病棟診療体制の再構築の計画・立案を行った。 ロボット支援広汎子宮全摘施設認定に向け、e-ラーニング、インサイト、オフサイトラーニングを行った。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 忠嗣	所 属		医学部 医学科 女性・生殖医学	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	研修医の臨床指導、学生の講義、ベッドサイドティーチングを行い教育に貢献する		0.30	A 3年生を対象に周産期の講義を行った。クリニカルクラークシップで来る学生に指導を行った。			
研究	0.30	周産期、特に超音波領域での研究テーマを見つけずは症例報告の論文作成を目指す		0.30	C 今年度は論文作成できなかった。			
社会 貢献	0.01	大学病院の医師の一員として求められれば人がいないところに応援に行く		0.01	A 産科当直の依頼があった時に応援に行った。			
管理 運営	0.09	大学病院の医師の一員としてリスク管理、感染対策に取り組む。保険診療にのっとり、保険病名を記載する。		0.09	A リスク管理、感染対策に取り組み、研修会にも出席した。保険診療にのっとり、保険病名を記載した。			
診療	0.30	日常診療、特に周産期分野において診療し、学会発表を重ねる		0.30	A 産科医として診療し、周産期新生児学会で発表した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		若山 明彦	所 属		医学部 医学科 女性・生殖医学	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	どの科に入っても役立つ産婦人科学の教育を、系統講義、ポリクリ、 クリクラを通して行う。		0.10	ある程度行われた。			
研究	0.20	子宮体癌における静脈・リンパ管侵襲の臨床病理学的意義についての臨床研究を 進め、学会発表ならびに論文作成を行い、博士号取得を目指す。		0.20	学会、研究会にて発表した成果を論文とし、博士号取得に向け準備をおこな い、近日学位審査予定である。			
社会 貢献	0.10	産婦人科臨床医として、市中病院・診療所での地域医療に貢献する。		0.10	ある程度行われた。			
管 理 運 営	0.10	当科の医療安全管理者としての責任を果たす。 また婦人科手術症例について統括する。		0.10	ある程度行われた。			
診 療	0.50	婦人科腫瘍を中心に外来、病棟、手術を行い、治療成績の学会・論文発表を行う。		0.50	ある程度行われた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	高橋健造		所 属	医学部 皮膚科		
職 名			教授			
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	皮膚科大学院生の研究指導、皮膚科研修医の学会発表指導、学部学生のポリリにおける指導、皮膚科の学部系統講義、皮膚科の大学院生講義、医学部1年生の担当教官としての指導、生活指導など持続して行う。		0.35	大学院生5名の指導、毎週のラボミーティングを行った。1名の院生が学位を取得した。研修医や医員の卒後研修を行い、1名が専門医を取得した。規定の学部学生の講義、大学院講義を行った。M1学生の班の生活指導を続けた。皆、無事に問題なく学生生活を楽しんでいる。	
研究	0.35	大学院生の研究指導を含め、遺伝性皮膚角化症ダリエー病への創薬をアステラス製薬との契約により継続する。耐性アタマジラムの薬剤導入へ向けての臨床研究をアース製薬との共同で開始する。遺伝性弾性線維腫の原因遺伝子の解明、皮膚の内因性老化因子の探索などを進める。これらの課題は、既に科研費を獲得した研究課題である。宮古島でのカボシ肉腫の高発症の原因解析を終了させる。沖縄に多いハンセン病、カボシ肉腫患者を対象としたiPS細胞の樹立を基盤としたAMEDの資金獲得を目指し、申請する。		0.20	アステラス製薬との共同研究を進めている。アース製薬との新薬の開発試験を全数、完了できた。大学院生を指導の下、皮膚老化、血管肉腫、ATL、皮膚病の網羅的発現分子診断を行った。教室員の科研費申請を含め、5課題を申請し、新たな西アフリカでの医療貢献を目的としたAMEDも分担研究者として、申請中である。	
社会 貢献	0.05	各地方の医師会などでの皮膚疾患の講演を10回ほど予定している。古宇利島での皮膚癌検診を、くめじまでの皮膚病検診を皮膚科医局の役目として開始する。沖縄に流布する耐性アタマジラムへの薬剤導入へ向けて、県内の幼稚園、保育園でのアンケート調査と、厚労省への陳情を行う		0.05	各地の医師会などでの皮膚疾患の講演を15回ほど行った。古宇利島、宮古島、久米島での皮膚癌検診を皮膚科医局の役目として開始した。沖縄に流布する耐性アタマジラムへの薬剤導入へ向けて、保健学科と共同の上、県内の幼稚園、保育園でのアンケート調査を実施し、医師主導型の治験を完了した。	
管理 運営	0.15	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会での評議員としての活動、オリリー協会での評議員としての活動、研究系皮膚科雑誌 JDSでのセクションエディター、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディター活動、および学内での各種の委員会の仕事も努める。		0.25	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会、各種の皮膚科関連学会、オリリー協会での評議員としての活動、研究系皮膚科雑誌 JDSでのセクションエディター、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディター活動、および学内での各種の委員会の仕事も努めた。副医学部長として、各種の会議、意見交換を行った。	
診療	0.20	外来診療・病棟診療での実際の診療		0.15	外来診療・病棟診療での実際の診療を通常通り行った。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		苅谷 嘉之	所 属		医学部	職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.20	医学部臨床実習生、研修医、医員、院生および看護師の指導・教育。		0.20	医学部臨床実習生、研修医、医員、院生および看護師の指導・教育ができた。				
研究	0.20	皮膚科学会・勉強会および病理学会への参加・発表。		0.10	病理および皮膚科学会総会や皮膚科勉強会への参加をした。				
社会 貢献	0.20	沖縄県他施設での外来・病棟診療。		0.30	離島を含む県内複数の他施設で外来・病棟診療を行った。				
管理 運営	0.10	病理部運営会議への参加。		0.10	病理部運営会議への参加をした。				
診療	0.30	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療。		0.30	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療を行った。				
計	1.00			1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		眞鳥 繁隆	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	医学科学生の臨床系統講義。医学科臨床実習生の指導・教育。看護師の指導・教育。研修医・研究生・医員の指導・教育。皮膚外科コースの指導。		0.25	医学科学生の臨床系統講義。医学科臨床実習生の指導・教育。看護師の指導・教育。研修医・研究生・医員の指導・教育、皮膚外科コースの指導を行った。	
研究	0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・発表。日本皮膚外科学会・日本熱傷学会・日本皮膚悪性腫瘍学会等への参加・発表。皮膚科関連雑誌への論文投稿。依頼論文の投稿。		0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・座長を行った。日本皮膚外科学会・日本熱傷学会・日本皮膚悪性腫瘍学会等への参加。皮膚科学会雑誌の投稿論文のreviewを行った。	
社会 貢献	0.25	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。市民公開講座の開催、運営。		0.25	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。市民公開講座の開催、運営。ラジオでの講演を行った。	
管理 運営	0.10	がんセンター運営・手術部運営・カンサーボード委員。レジメン登録委員会。がん登録委員会。沖縄県皮膚科地方会の運営、沖縄県皮膚科勉強会の運営、在宅褥瘡セミナーの管理運営。		0.10	がんセンター運営・手術部運営・カンサーボード委員。レジメン登録委員会。がん登録委員会。沖縄県皮膚科地方会の運営、沖縄県皮膚科勉強会の運営、在宅褥瘡セミナーの管理運営。	
診療	0.30	大学病院での外来・入院・手術診療。		0.30	大学病院での外来・入院・手術診療。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	藤田次郎		所 属	医学部 医学科	
職 名			教授		
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.05	講義においては、画像をふんだんに取り入れたカラープリントを使用し、適宜、パワーポイント電子ファイルを学生に配布し、学生が視覚的に勉強できるよう工夫する。また画像、および模式図を用いた視覚的な回診を実施することで、臨床実習の充実を図る。	0.05	講義においては、画像をふんだんに取り入れたカラープリントを使用し、適宜、パワーポイント電子ファイルを学生に配布し、学生が視覚的に勉強できるよう工夫した。病院長の公務のため回診の回数が半分になったものの、画像、および模式図を用いた視覚的な回診を実施した。目標を通りの成果を達成しえた。	
研究	0.25	自身が第1著者の英文論文を1編以上まとめる。今年度中に感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を3冊以上出版する。沖縄県の支援を得て、感染症関連の臨床研究「次世代ゲノム解析技術を応用した感染症診断システムの開発による沖縄型国際感染症研究拠点の基盤形成(7000万円x3年間、3年目)」を継続する。また肝硬変に対する脂肪幹細胞を用いた再生医療の臨床応用を目指す。治験調整医師として、抗菌薬の治験を積極的に実施する。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を務める。	0.30	大学院生の論文執筆を補助し、多数の英文論文を発表しえた。感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を3冊出版することができた。沖縄県の支援を得て、感染症関連の臨床研究「次世代ゲノム解析技術を応用した感染症診断システムの開発による沖縄型国際感染症研究拠点の基盤形成(7000万円x3年間、3年目)」を実施した。また新たに「国際医療拠点を目指した琉球大学での再生医療基盤形成(7000万円x3年間、2年目)」を継続しえた。治験調整医師として、抗菌薬の治験を積極的に実施した。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を務めた。目標通りの成果を達成しえた。	
社会貢献	0.10	沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信する。肺炎球菌ワクチンの公費助成に尽力するとともに講演会を企画する。沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させるとともに、市民を対象として感染症、または喘息関連の講演を企画する。新聞、マスコミなどを通し、感染症に関する知識を啓蒙する。同時に附属病院長としての渉外活動を実施する。	0.15	感染症関連の英文論文を多数発表することで、沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信しえた。呼吸器感染症の啓蒙活動に関しては聖教新聞に全面記事を掲載できた。沖縄県における感染症対策を充実させるとともに、感染症関連の講演会、およびシンポジウムを多数実施した。同時に附属病院長としての渉外活動を実施した。目標通りの成果を達成しえた。	
管理運営	0.60	第一内科科長、感染対策室長、および病院長としての責務を果たす。第一内科科長としては、論文数を年間50編確保する。第一種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用する。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担う。附属病院長として、病院の管理をするのみならず医学部、および附属病院の移転に関して役割を果たす。	0.50	第一内科科長、感染対策室長、および病院長としての責務を果たした。第一内科科長としては、論文数を年間50編以上を確保しえた。第一種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用した。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担った。附属病院長として、病院の管理をするのみならず医学部、および附属病院の移転に関して役割を果たした。目標通りの成果を達成しえた。	
計	1.00		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		建山 正男	所 属		大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.10	1. 学生授業 a)目標:80%以上の出席をし、予習を行って臨んだ学生に対しては国試合格水準はもとより研修医レベルの基本的知識を取得させる。 a)内容:診療と直結した双方向とリアリティを感じさせる講義を行う。2. 大学院生指導:学会発表、博士論文の作成を指導		0.10	学生授業においては、感染症系統講義世話人として、シラバス、カリキュラム作成にあたった。 本学の特徴である、熱帯医学、国際保健のカリキュラムを専門家を招聘し充実させた。近年問題となっている感染症アウトブレイクに関して、医療行政の講師に依頼し医学部生の将来研修に役立てた。大学院学生の指導を行い、現在、学位論文投稿済みでrevise中。
研究	0.30	1. 学会誌への投稿 邦文1編, 1編(英文誌)。 2. 著書 2編(分担) 3. 総説 2編。 2. 研究関連領域の学会発表, 総会レベルでのシンポジウム1題, 6題(共同演者含)。 3. 所属学会での役割 理事, 評議員としての活動。 4. 外部資金獲得 2件以上の獲得(分担研究含む) 5. HIV関連神経認知障害の定量的評価の研究		0.30	学会誌への投稿(筆頭著者)は0。 著書は3編, 総説3編であった。 科学研究費獲得は2件(208万)。 学会活動は全国総会のシンポジウム演者(日本エイズ学会)、九州地方会(感染症・化学療法合同総会)
社会 貢献	0.05	1. HIV/AIDS予防啓発のための講演。 2. 沖縄県におけるHIV/AIDS予防啓発のための組織作り。 3. 勤務医, 開業医むけの講演会の開催。 4. 沖縄県HIV協議会委員としての活動。		0.05	1. HIV/AIDS予防啓発のための講演。 2. 沖縄県におけるHIV/AIDS予防啓発のための組織作り。 3. 勤務医, 開業医むけの講演会を8回開催。 4. 沖縄県HIV協議会委員としての活動。
管理 運営	0.20	1. 院内貢献:a)薬事委員、b)ME機器選定委員 C)院内感染対策室実務の責任者としての活動、d) 職員血液曝露対策の実務責任者としての活動。 2. 沖縄県エイズ中核拠点病院における貢献:委任された事項(県内診療体制の構築, 研修会, 広報誌の発行)の遂行。		0.20	1. 院内貢献:a)院内感染対策室実務の責任者としての活動、c) 職員血液曝露対策の実務責任者としての活動。 2. 沖縄県エイズ中核拠点病院における貢献:委任された事項(沖縄県協議会主宰、県内診療体制の構築, 研修会, 広報誌の発行)の遂行。
進路 指導	0.05	指導教官担当学生の留年, 退学の予防。成績不振者に対する助言 2. 専門領域を含む進路指導。具体的には指導教官との交流会を6月末までに開催		0.05	担当した指導教官担当学生(12名)の該当年度の留年者は0であった。経済的困窮の学生の奨学資金獲得に尽力した。 学生の希望する医療と工学系プロジェクト推薦。
診療 業務	0.30	1. HIV/AIDS診療:エイズ中核拠点病院の実務責任者として、県内の85%の患者の外来診療を担当。 2. 輸入感染症の治療環境整備(厚労省研究班指定薬剤保管者)。 3. 院内・院外の難治性感染症のコンサルテーションおよび医師の指導		0.30	1. HIV/AIDS診療:エイズ中核拠点病院の実務責任者として、県内の85%の患者の外来診療を担当。 2. 輸入感染症の治療環境整備(厚労省研究班指定薬剤保管者)。 3. 院内・院外の難治性感染症のコンサルテーションおよび医師の指導
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		古堅 誠	所 属		琉球大学 大学院 医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科 学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンス、勉強会、抄読会などを通して、学生や研修医に対し、肺癌診療についての情報提供を行う。 気管支鏡検査の目的や操作の実際、気管支解剖学的構造の理解を高めるため、臨床実習中の学生に対して、気管支鏡シミュレーション教育を実施する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンスや勉強会、抄読会などを通して、学生や研修医の肺がん診療への理解が深められるよう努めた。 医学部ポリクリ生に対して、気管支鏡シミュレーション実習を実施し、学生の呼吸器領域への関心を高めることができた。
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 九州肺癌研究機能(LOGiK)内での臨床研究に積極的に参加する。 呼吸器/肺腫瘍領域の学会での発表。 製薬会社より肺癌研究に関する奨学寄付金取得に努める。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 九州肺癌研究機構(LOGiK)のプロトコール委員として、臨床試験のプロトコール作成にかかわった。 特異な経過を呈した症例について、学会発表をおこなった。 肺がん研究に関する奨学寄附金を取得した。
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県の肺癌診療向上のため、県内の肺癌診療担当医の間で勉強会を企画する。緩和ケア研究会にて講習を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 県内の肺癌診療医の間で勉強会をおこない、適正な肺癌診療について情報共有をおこなった。 県内の肺癌に関する各種研修会で講演をおこなった。
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 外来医長として、外来診療で生じた諸問題に対応する。 肺腫瘍関連の新規レジメンの作成を行う。 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> 外来医長として、外来スタッフからの要望に対応し、円滑な診療が継続できるよう努めた。 非小細胞肺癌の化学放射線療法で使用できるレジメンを追加した。
診療	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 肺腫瘍外来や肺腫瘍セカンドオピニオン外来、外来化学療法を担当し、受け持ち患者の適正な診療に従事する。肺腫瘍患者のカンファレンスを定期的に行い、部署内での患者情報の共有に努める。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> 肺腫瘍外来や肺腫瘍セカンドオピニオン外来を担当し、受け持ち患者の適正な診療に従事した。 所属科内や放射線治療医と間でカンファレンスを定期的におこない、院内の肺癌診療向上に努めた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 武士	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	系統講義では、学生の興味を引き付ける理解しやすいスライド作成に努め、呼吸器、感染症診療の面白さを伝えられるよう努力する。また、胸部単純写真の読影レクチャーを定期的(2週間に一回程度)に行う。卒業後の進路に悩む学生がいれば、積極的に相談にのるようにする。		0.20	系統講義ではイラストや写真を多用したスライドを用い、できるだけわかりやすい講義を行うように努めた。講義終了後には必ずいくつかの質問を受けたが、講義内容については概ね理解していることがわかった。また、病棟実習をしている4, 5年生を対象とした胸部単純写真の読影レクチャーも2週に一度、しっかりと行うことができた。	
研究	0.40	遺伝子解析技術を応用した呼吸器感染症迅速診断法の確立、そしてその臨床応用に向けた研究を進める。		0.40	マルチプレックスPCR法を用いた感染症診断を積極的に進めることができた。肺非結核性抗酸菌症の研究も前進させることができた。大学院生とも常にディスカッションをし、論文執筆も行うことができた。	
社会 貢献	0.20	貴重な症例や研究成果を積極的に国内外の学会で発表し、論文化することで、広く情報を発信する。		0.20	研究内容を論文化し、広く情報を発信することができた。	
管理 運営	0.10	当科における研究活動が円滑に進むよう、実験室の管理、運営を行う。		0.10	実験室の管理、運営は円滑に行うことができた。	
診療	0.10	各々の患者にベストな医療を提供できるよう、常に最新の医学情報を学ぶ姿勢で取り組む。また、患者やその家族との対話をしっかりと行い、納得した上で医療を受けてもらうよう努力する。		0.10	患者さんやご家族との対話を重視し、患者さんやご家族が望んでいることは何かを第一に考えながら診療を行うことができた。学会に積極的に参加し、また文献や書籍を通して最新の情報を得るよう努力し、それを診療に還元することができた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		新垣伸吾	所 属		琉球大学大学院医学研究科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.15	医学部学生の講義を臨床に則した内容でかつトピックを交えながら講義していく。臨床実習学生に対するベッドサイドティーチングの充実をはかる。		0.20	系統講義、病棟での肝疾患に関する講義、ベットサイドティーチングともに目標は達成できたと思う。			
研究	0.25	肝疾患のおもに疫学に関する臨床研究を行う。 英文誌への論文投稿1編以上行う。 学会での報告発表を2回以上行う。		0.10	肝硬変の成因に関する調査を行った(平成30年度に発表予定)。英文誌への投稿はできなかった。学会研究会での発表は3回。			
社会 貢献	0.05	学外の研究会への参加・発表を行う。 他施設での講演・講義を行う。		0.05	肝疾患診療連携拠点病院として医療従事者(特に肝臓非専門医)、一般市民向けへの肝疾患の情報提供、啓発活動を講演を通してできた。			
管理 運営	0.05	病院内、学部内各種委員会への参加		0.05	輸血療法委員会、がん登録室連絡委員会の委員として参加した。			
診療	0.50	附属病院における診療活動の充実		0.60	外来、病棟での診療を充実してできた。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		仲地佐和子	所 属		大学院医学研究科第二内科(糖尿病・がん病態解析学講座)
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.15	(1)ポリクリ学生、研修医への教育、レクチャー (2)M3学生への系統講義(白血病と類縁疾患、凝固系と線用系、血友病 年3コマ)		0.15	(1)M3系統講義は十分行えた。(2)ポリクリ実習生へ患者を担当させ、毎週振り返りを行った。2017年2月～2018年1月までにのべ50人の医学生が血液内科を選択肢し、ポリクリ実習を行えた。(3)血液学会の教育認定施設であり、指導医取得のため論文執筆中である。
研究	0.45	(1)血液悪性腫瘍症例リサーチ:検体収集、症例報告発表 (2)日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)、日本成人白血病研究グループ(JALSG)の多施設共同研究の施設参加 (3)ATL症例におけるFDG PET/CTの有用性についての後方視的研究(予後解析) (4)(3)の継続研究として分子レベルでの解明 (5)論文作成		0.45	(1)外来、入院患者におけるATL患者へ研究内容の説明を行い、同意書を取得し検体を回収した。過去の移植成績データを解析し、発表できた。(2)JCOGの審査に通り、認定施設となった。また、十数回の県内外の研究会・講演会に参加・実施できた。(3)ATL症例の予後におけるPETの有用性について臨床研究を行い、英文論文にまとめて投稿し、acceptされた。(4)引き続き継続研究を開始し、実験中。
社会 貢献	0.10	(1)製薬会社の勉強会、座談会(年2-4回) (2)県内血液内科関連施設との協力関係の構築(臨床試験の周知、移植症例の検討)		0.05	(1)製薬会社主催の講演会などの講演、座長などを勤めた。(2)県内の他施設へ臨床試験を周知し、患者の紹介をしていただいた。また、移植症例を検討し、患者の紹介をしていただいた。
管理 運営	0.05	(1)9西病棟の無菌室の運用にかかる安全管理 (2)化学療法を行う際の抗がん剤の取り扱いに関する安全管理		0.05	(1)末梢血幹細胞採取・凍結保存のマニュアルを改訂した。(2)9階西病棟の無菌室の稼働は重大な問題もなく、稼働している。(3)抗がん剤の取り扱いに関して必ず安全キャビネットを使用する旨、繰り返し指導した。
診療	0.25	(1)血液内科に関する診療:外来診療、入院診療、ドナー適格検査 (2)骨髄バンクドナーの骨髄採取(年間10-12回)		0.30	(1)血液内科の外来診療は大きな問題もなく経過した。のべ約70人強の血液疾患患者の入院診療を行った。うち、病理解剖を5件実施した。(2)骨髄バンクドナーの骨髄採取は小児血液医と協力し、これまでの月1回から月2回のペースで円滑に行えるようになった。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		西 卷 正	所 属		医学研究科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.20	M1(医学概論):画像、動画を取り入れた講義を行い、医学を学ぶ意欲を高める。M3(系統講義):①画像、動画を取り入れた講義で消化器疾患の臨床の理解を容易にする。②重要な知識(図・表)はハンド・アウトとして学生に配布する。③基本知識を問う医師国家試験形式の試験問題を作成し、学生の学力と適切に評価する。出題者の教員には出題問題毎の正解率を算出し、問題作成能力の向上を図る。M5-M6(臨床実習):①医行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。②医局抄読会に参加させ、英語論文の形式を理解させ、最新知識に接する機会を提供する。大学院生:①画像、動画を取り入れた講義を行い、最新専門知識を理解に努める。②最先端の知識を最新論文の抄読会で学ばせる。		0.00	
研究	0.20	①他の教員と共同で、消化器外科、乳腺・内分泌外科、および小児外科領域の研究成果を学会等で発表する。②多施設共同臨床試験に積極的に参加する。③1編以上の英語論文を執筆し、学術誌に発表する。④国際学会で研究成果を発表する。		0.00	
社会貢献	0.10	①医療行政に関する会議・行事に参加し、自らの専門知識によって地域医療に貢献する。②所属学会の司会・座長となり、各種会議にも積極的に参加して、わが国の外科学の進歩に貢献する。③学術誌の査読者として医学の進歩に貢献する。		0.00	
管理運営	0.30	①大学院医学研究科、医学部、および医学部附属病院の各種委員会に積極的に出席し、管理運営に貢献する。②副病院長として担当業務の遂行を通じて医学部附属病院の管理運営に貢献する。		0.00	
診療	0.20	医学部附属病院で難度の高い消化器外科手術を術者として実演するとともに、第一助手として手術の指導を行い、優秀な外科医の育成を図る。		0.00	
計	1.00			0.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	